

研究活動報告

Report on Research Activities

(2013年1月1日～2013年12月31日)

ここに収録された題目は、学内研究者の発表したもののうち、2013年1月1日より2013年12月31日迄の期間に学術雑誌等や学会等で発表したものを、論文の性質、発表機関などには一切制限を加えず、提供された原稿のまま掲載した。

- | | |
|----|-----------|
| 凡例 | ①著書： |
| | ②総説・原著論文： |
| | ③報告・資料： |
| | ④学会発表： |
| | ⑤雑誌・新聞等： |
| | ⑥その他研究活動： |

〔スポーツ科学科〕

スポーツ医科学コース

教授

河合 祥雄

①

- 1) 河合祥雄：神経・筋疾患による心筋症. 井上 博編集「今日の循環器疾患治療指針 第3版」, 医学書院, 東京, 633-636.

②

- 1) 河合祥雄：たこつぼ心筋症の諸病型（特集：集中治療におけるたこつぼ心筋症）. ICU と CCU 37(7): 503-506. 2013.

- 2) Hongo T, Kawai S, Kamoshita H, Kurata M: Efficacy of aroma therapy for dementia. 順天堂スポーツ健康科学研究 4 (1: 通巻63号): 1-9. 2013.

- 3) 重野利彰, 河合祥雄：我が国の体育系大学生における早期再分極の検討. 心電図 33(2): 101-112, 2013.

- 4) Kawai S, Shimada T.: Inflammation in takotsubo cardiomyopathy? Inquiry from “Guidelines for Diagnosis and Treatment of Myocarditis (JCS 2009)”. J Cardiol.

2013 Dec 26. pii: S0914-5087(13) 00331-6. doi: 10.1016/j.jjcc.2013.11.002. [Epub ahead of print]

③

- 1) 河合祥雄, 丸井英二, 染谷由希, 藤田淑香：青年期に異なる食・運動習慣をもつ体育学部, 医学部卒業生の健康状態と疾病発症の解明. 順天堂医事雑誌59: 93-94, 2013.

④

- 1) 河合祥雄, 荒木 悠, 長谷川めぐみ, 里村隆気, 染谷由希, 関根紀子, 鈴木大地：食品摂取により浮心を下方に移動させた場合の「蹴伸び動作」パフォーマンスに与える影響. 第16回 水と健康医学研究会, 東京, 一ツ橋, 如水会館, 座長 渡部厚一. 平成25 (2013) 年6月15日 (土).

- 2) 1) 河合祥雄：水泳・潜水で死なない, 死なせない! ~循環器疾患と水泳運動の関連を含めて~. 第16回 水と健康医学研究会, 東京, 一ツ橋, 如水会館, 座長伊東三吾. 平成25 (2013) 年6月15日 (土)

- 3) 牧野聖也, 池上秀二, 狩野 宏, 浅見幸夫, 伊藤裕之, 鈴木良雄, 河合祥雄, 澤木啓祐, 長岡 功, 竹田和由, 奥村 康.: 1073R-1 乳酸菌で発酵したヨーグルトの摂取がインフルエンザ特異的抗体価に与える影響. 日本食品免疫学会 第9回学術大会. 演題番号:P-14. 東京: 東京大学・伊藤謝恩ホール. 2013年10月17~18日.

- 4) 牧野聖也, 池上秀二, 狩野 宏, 浅見幸夫, 伊藤裕之, 鈴木良雄, 河合祥雄, 澤木啓祐, 長岡 功, 竹田和由, 奥村 康.: 1073R-1 乳酸菌で発酵したヨーグルト

の摂取がインフルエンザ特異的抗体価に与える影響. 第41回日本臨床免疫学会総会. 演題番号: P6-11. 下関市: 海峡メッセ下関. 2013年11月27~29日.

⑥

講演

- 1) 河合祥雄:「スポーツ指導者に必要な医学的知識 1, 2」平成25年度千葉県社会体育公認指導員養成講習会平成25年度千葉県スポーツリーダー養成講習会 千葉県教育庁教育振興部体育課. 平成25 (2013) 年 6 月 16日 (日).
- 2) 河合祥雄: 第211回 CPC 講師. 旭市医師会・旭中央病院共催 第221回 CPC, 旭中央病院講堂. 平成25 (2013) 年10月8日 (火).
- 3) 河合祥雄:「たこつぼ心筋症について一病態, 病理像そしてたこつぼ現象の意味すること」. 旭市医師会・旭中央病院共催 CPC 講師講演会, 旭中央病院講堂, 座長神田順二. 平成25 (2013) 年10月8日 (火)
- 4) 河合祥雄:「ダイバーの為の最新安全・健康管理について」. 平成25年度 公認スクーバ・ダイビング指導員研修会, 財団法人 社会スポーツセンター, スクーバ・ダイビング指導者育成委員会, 新大阪丸ビル609号室. 平成25年4月13日 (土).
- 5) 河合祥雄:「ダイバーの為の最新安全・健康管理について」. 平成25年度 公認スクーバ・ダイビング指導員研修会, 財団法人 社会スポーツセンター, スクーバ・ダイビング指導者育成委員会, 名古屋港ポートビルB会議室. 平成25年4月14日 (日)
- 6) 河合祥雄:「ダイバーの為の最新安全・健康管理について」. 平成25年度 公認スクーバ・ダイビング指導員研修会, 財団法人 社会スポーツセンター, スクーバ・ダイビング指導者育成委員会, 沖縄青年会館. 平成25年4月21日 (日)

特許

- 1) 鈴木良雄准教授, 澤木啓祐特任教授, 河合祥雄教授, 奥村康特任教授, 長岡 功教授, 竹田和由准教授, 株式会社明治知的財産部特許 2G 山田未央: 1073R-1 乳酸菌の摂取が免疫機能に及ぼす効果. 平成24年10月1日

神奈川県小田原市成田540株式会社 明治研究本部研究企画部長秋本秀司
東京都文京区本郷2丁目1番1号順天堂大学学長木南英紀

査読

- 1) 心臓「左室緻密化障害の心エコー所見を呈し薬剤抵抗性心室頻拍から死に至った拡張型心筋症の一剖検例」
- 2) 心臓「孤立性左室心筋緻密化障害成人例の症例検討」
- 3) JCCASED, JCCASED-13-0035

櫻庭 景植

①

前澤克彦, 桜庭景植: III-2 ランニング量からみた障害発生. ランニング障害のリハビリテーションとリコンディショニング, 増田雄一編集, 文光堂: 52-56, 2012

②

【原著】

Yosuke Tsuchiya, Eisuke Ochi, Keishoku Sakuraba, Naoki Kikuchi, Inkwan Hwang;
Isokinetic strength and anaerobic/intermittent capacity of Japanese lacrosse players. *Isokinetics and Exercise Science* 21; 77-82, 2013

Tsuchiya Y, Sakuraba K, Wakamatsu K, Ochi E.
Effect of eccentric contractions of elbow flexor on bone formation and resorption markers. *The Journal of Sports Medicine and Physical Fitness*. 53(2): 1-7. 2013.

Tsuchiya Y, Sakuraba K, Ochi E.
High force eccentric exercise enhances serum tartrate-resistant acid phosphatase-5b and Osteocalcin. *Journal of Musculoskeletal and Neuronal Interactions*. in press

Nakaniida A, Sakuraba K, Hurwitz E, Pediatric Orthopedic Injuries Requiring Hospitalization; *Epidemiology and Economics*. *Journal of Orthopedic Trauma*. 28(3): 167-172, 2013. 5

Miura T, Sakuraba K. Influence of Different Spinal Alignments in Sitting on Trunk Muscle Activity. *Journal of Physical Therapy Science*. 25: 483-487. 2013

Masaaki Kaneko, Keishoku Sakuraba. Association between femoral anteversion and lower extremity posture upon single-leg landing: implications for anterior cruciate ligament injury. *Journal of Physical Therapy Science*. 25(10): 1213-17. 2013

Kenta Wakamatsu, Keishoku Sakuraba, Yosuke Tsuchiya, Fumihiko Yamasawa, Eisuke Ochi. Bone metabolism markers in collegiate female runners. *International SportMed Journal*: 14(3): 148-154, 2013.

Koikawa N, Aoki, E, Suzuki, Y, Sakuraba S, Nagaoka I, Aoki K, Shimmura Y, Sawaki K. Wheat gluten hydrolysate affects race performance in the triathlon. *Biomedical Reports*. 1(4): 646-650, 2013.

Yaginuma S, Sakuraba K, Kadoya H, Koibuchi E, Matsukawa T, Ito H, Yokoyama K, Suzuki Y. Early bedtime associated with the salutary breakfast intake in Japanese nursery school children. *Int Med J*, accepted in press, 2013.

佐藤照友旭, 土屋陽祐, 櫻庭景植, 相原博之, 武藤芳照, 越智英輔. 高校スキー選手の外傷・傷害調査. *日本スキー学会誌*. 23(1): 45-48. 2013.

若松健太, 櫻庭景植, 土屋陽祐, 山澤文裕, 越智英輔; 大学女子スポーツ選手における疲労骨折と骨代謝マーカーとの関係—骨吸収マーカー“TRACP-5b”に着目して—
The relationship between stress fractures and bone metabolism markers in female collegiate athletes — focus on a new bone resorption marker “TRACP 5b”—
日本臨床スポーツ医学会誌, 21(1): 119-124, 2013.

金子雅明, 三谷玄弥, 櫻庭景植; 下肢アライメントと膝関節回旋トルクとの関係性の性差
Relationship Between Tibial Strength and Alignment of Lower Extremity, *整スポ会誌* 33(1): 56-61, 2013

鹿倉二郎, 櫻庭景植, 鳥居 俊, 飯田悠佳子; 高校3年間のアメリカンフットボールのトレーニング参加による身体発育の検討. *成長会誌* 19(1): 59-62, 2013

鈴木良雄, 木元広美, 永倉ゆか, 児玉千紘, 鯉川なつえ, 櫻庭景植, 鈴木チセ, 佐々木啓介, 清水智美, 奥田美穂; 乳酸菌 *Lactococcus lactis* ssp. *cremoris* H61 株含有ヨーグルトの継続摂取が女子大学生の肌, 便通, 体調に及ぼす影響.
New Diet Therapy, 29(1); 23-30, 2013

和田良広, 櫻庭景植, 窪田敦之, 鈴木良雄, 鹿倉二郎, 洪定男. 高齢者と若年者の体幹筋活動の比較. *理学療法科学*. 28(5): 689-693. 2013.

【総説】

櫻庭景植, 若松健太, 窪田敦之, 藤田真平, 山澤文裕; 女子長距離ランナーと骨粗鬆症・疲労骨折～骨代謝マーカーおよび骨質関連マーカーを中心に～

Stress fracture and bone metabolism markers in female long distance runners.

日本臨床スポーツ医学会誌, 21(3): 561-564, 2013

③

鈴木良雄, 仲村 明, 長門俊介, 鯉川なつえ, 櫻庭景植, 小林 唯. 大学陸上長距離選手の栄養素充足状態および競技能力の客観指標の探索. Exploring biomarkers to indicate nutritional status and athletic performance in college distance runners. *ネスレ栄養科学会議 研究成果報告書*. 2013.

鈴木良雄, 河村剛光, 窪田敦之, 荻原朋子, 青葉幸洋, 門屋悠香, 佐賀典生. 非侵襲的な手法を用いて日常および動作時の代謝を科学する. *順天堂スポーツ健康科学研究*. 4Suppl: 6, 2013

丸山伸也, 櫻庭景植, 若松健太, 土屋陽祐, 越智英輔. 競技レベルが大学女子ラクロス選手の骨代謝及び骨質に及ぼす影響. *運動とスポーツの科学*. 19(1): 149-153. 2013

④

【国際発表】

Kenta Wakamatsu, Keishoku Sakuraba, Yoshio Suzuki, Yosuke Tsuchiya, Eisuke Ochi. Association Between The Stress Fracture And Bone Metabolism/quality Markers In Lacrosse Players. *American College of Sports Medicine 59th Annual Meeting*. 2012.5. San Francisco.

Nakaniida A, Sakuraba K, Shikakura J, Kadoya H, Anegawa L, Hurwitz E. Pediatric Orthopedic Injuries Requiring

Hospitalization: Epidemiology and Economics, Pan Pacific Conference of Medicine and Science in Sports. 2013. 2. Honolulu HI

Kadoya H, Sakuraba K, Shikakura J, Nakaniida A, Ishikawa T. Quantitative test for severity for chronic ankle instability; can we predict the re-injury? Pan Pacific Conference of Medicine and Science in Sports. 2013. 2. Honolulu HI

Wakamatsu K, Sakuraba K, Kubota A, and Fujita S. Association between The Stress Fracture and Bone Metabolism Markers in Female Collegiate Athletes
—Focus on ‘TRACP-5b’ as a New Bone Metabolism Marker—. The 18th Annual Congress of European College of Sport Science. 2013. 7. Barcelona

Kaneko M, Sakuraba K, Okazaki M, Kakizaki F. Relationship of femoral anteversion and lower extremity biomechanics in sagittal plane upon single-leg landing. The 12th International Congress of Asian Confederation for Physical Therapy. 2013. 9. Taichung

Yoshio Suzuki, Akira Nakamura, Shunsuke Nagato, Natsue Koikawa, Keishoku Sakuraba, Yui Kobayashi:
Exploring biomarkers to indicate nutritional status and athletic performance in college distance runners.
“Food for Life” Science Forum 2013 2013/10/2, Tokyo

Yoshio Suzuki, Makoto Nakadake, Hiroyuki Tomita, Mutsu-mi Harada, Minoru Kano, Keishoku Sakuraba, Hirokazu Tsuji, Takuya Takahashi, Takashi Asahara, Koji Nomoto, Yuichiro Yamashiro:
Effect of a short term training session on bacterial gut microbiota in male athletes.
Japan-Russia International Workshop 2013, Infectious Diseases
(New Aspects of Epidemiology, Pathogenesis, Treatment & Prevention)
The 4th ISTC TI “Probiotics and Health” Workshop, 2013/10/28, Tokyo

【国内発表】

柳沼志帆, 門屋悠香, 櫻庭景植, 鈴木良雄. 保育園児の生活習慣と摂取エネルギー量に関する研究. 第7回日本食育

学会・学術大会. 演題番号: D-5, 東京: 東京聖栄大学. 2013年5月18-19日.

柳沼志帆, 櫻庭景植, 門屋悠香, 松川岳久, 横山和仁, 鈴木良雄. 長野市内の保育園児の亜鉛摂取状況と生活・運動習慣等との関係. 第60回日本栄養改善学会学術総会. 神戸: 神戸国際会議場. 2013年9月12-14日.

橋本貴幸・櫻庭景植; 足部内在屈筋筋力トレーニングによるアーチ形成効果について～トレーニング前後における縦アーチ長と横アーチ長の比較～
第47回 日本理学療法学術大会, 平成24年5月25日(金)–27日(日), 神戸, 2012.

橋本貴幸・櫻庭景植・矢口春木; 長母趾屈筋と長趾屈筋の腱連結評価と足趾運動に及ぼす影響について
第21回整形外科リハビリテーション学会学術集会, 平成24年9月22日(土)–23(日), 愛知, 2012.

橋本貴幸, 櫻庭景植. 足部内在屈筋筋力トレーニングによる動的検査項目の効果検証～トレーニング前後における垂直跳・片脚幅跳・50mダッシュタイムの比較～. 第48回日本理学療法学術大会. 2013. 5. 愛知

Suzuki Y, Nakamura A, Nagato S, Koikawa N, Sakuraba K, Kobayashi Y. Exploring biomarkers to indicate nutritional status and athletic performance in college distance runners. 第3回食と生命のサイエンス・フォーラム. 東京: 東京大学伊藤謝恩ホール. 2013年10月2日.

石川拓次, 櫻庭景植, 藤田真平, 窪田敦之, 若松健太:
女子中・長距離競技者における月経状況および疲労骨折受傷時の骨吸収動態についての検討.
整スポ会誌, 33(4); 152, 2013
第39回日本整形外科スポーツ医学会, 名古屋, 2013/9/13-14

藤田芳正, 櫻庭景植, 窪田敦之, 藤田真平, 青木和浩:
高校男子サッカー選手における足趾把持筋力とターン動作時の足底圧分布の関係.
整スポ会誌, 33(4); 203, 2013
第39回日本整形外科スポーツ医学会, 名古屋, 2013/9/13-14

窪田敦之, 桜庭景植, 藤田芳正, 藤田真平, 洪 定男:
血流制限下で行う低強度の遠心性トレーニングの効果.
整スポ会誌, 33(4); 111, 2013
第39回日本整形外科スポーツ医学会, 名古屋, 2013/9/13-14

中新井田敦子, 桜庭景植, 窪田敦之, 小林拓郎, 池田啓一, 鹿倉二郎, 新庄里奈:
虚弱性高齢者における運動プログラムが歩行とQOLに与える影響.
整スポ会誌, 33(4); 211, 2013
第39回日本整形外科スポーツ医学会, 名古屋, 2013/9/13-14

鈴木良雄, 仲村 明, 長門俊介, 沖田磨衣, 鯉川なつえ, 桜庭景植, 奥村 康, 竹田和由, 澤木啓祐. 乳酸菌 R-1 の摂取は持久運動に伴う免疫機能の低下を抑制する. 第68回日本体力医学会大会. 演題番号: 1I6-3, 東京: 日本教育会館. 2013年9月21~23日.

高梨雄太, 鯉川なつえ, 鈴木良雄, 沖田磨衣, 桜庭景植, 奥村 康, 竹田和由, 澤木啓祐. 乳酸菌 R-1 の摂取は投擲選手の強化練習に伴う免疫機能の低下を抑制する. 第68回日本体力医学会大会. 演題番号: 1I6-4. 東京: 日本教育会館. 2013年9月21~23日.

柳沼志帆, 門屋悠香, 桜庭景植, 鈴木良雄. 幼児の運動習慣に関係のある因子に関する研究. 第68回日本体力医学会大会. 東京: 日本教育会館. 2013年9月21~23日.

藤田真平, 桜庭景植, 佐久間和彦, 柳谷登志雄, 窪田敦之;
スプリンターの下肢筋力および体幹筋部と100 m 走における加速能力との関係
第68回日本体力医学会, 東京, 2013/09/21-23

富永修一, 桜庭景植. 疾走用下腿義足のソケット内圧分布の特徴 ~歩行と走行を比較して~. 第29回日本義肢装具学会. 2013. 10. 佐賀

杉浦雄策, 佐久間和彦, 桜庭景植, 佐藤 和: 牽引走(超高速疾走)トレーニング中に発生するハムストリング肉ばなれの予防法.
第24回日本臨床スポーツ医学会学術集会. 2013. 10. 25. 熊

本

橋本貴幸, 桜庭景植: 長母趾屈筋の腱連結趾評価方法について(第1報) —足趾他動伸展を中心に—. 第24回日本臨床スポーツ医学会学術集会. 2013. 10. 26. 熊本

藤田真平, 桜庭景植, 若松健太, 鯉川なつえ, 山澤文裕, 鹿倉二郎, 窪田敦之: 大学女子長距離選手と運動習慣のない女子学生の骨代謝動態の比較.
第24回日本臨床スポーツ医学会学術集会. 2013. 10. 26. 熊本

大野日向, 桜庭景植, 窪田敦之: 異なるステップ動作における膝関節傷害発生リスクの評価: 第24回日本臨床スポーツ医学会学術集会. 2013. 10. 26. 熊本

福土徳文, 桜庭景植, 吉村雅文, 窪田敦之, 青葉幸洋:
シューズの相違がターン動作における足底圧に及ぼす影響 ~第5中足骨疲労骨折との関連を中心に~
第26回日本トレーニング科学会大会, 山形蔵王, 2013/11/8

⑥

【ビデオなど】

桜庭景植監修; 熱中症応急キット, シンネットワーク, 2013.

【査読】

JOSKAS (Journal Orthopaedic Society of Knee and Arthroscopy and Sports Medicine)

Journal of Physical Therapy Science

日本臨床スポーツ医学会

日本整形外科スポーツ医学会

【講演】

桜庭景植; スポーツ現場での救急処置(外科), 日本体育協会公認スポーツドクター講習会, 東京, 1月13日, 2013

桜庭景植; スポーツ現場での救急処置(外科系—武道への対応を中心に)—日本医師会認定健康スポーツ医制度再研修会, 1月19日, 東京, 2013

桜庭景植; スポーツ外傷・障害の基礎知識; 下肢・下腿, 日本体育協会公認アスレチックトレーナー養成講習会 1

月29日, 東京, 2013

桜庭景植; 地域・職場で役に立つ運動療法の実際, 東京都医師会・すみだ医師会産業医研修会, 2月3日, 東京, 2013

桜庭景植; スポーツ外傷・障害の最新情報—下腿・足関節, 日本体育協会公認スポーツドクター講習会, 東京, 2月17日, 2013

桜庭景植; スポーツの現場・職場における応急処置, 東京都医師会・北区医師会「健康スポーツ医研修会」・「産業医研修会」, 東京, 3月12日, 2013

桜庭景植; スポーツ現場・職場における応急処置と実習(実技). 東京都医師会第23回健康スポーツ医学研修会, 5月11日, 東京, 2013

桜庭景植; 膝関節に対する運動療法・筋力トレーニングの up to date—血流制限下における筋萎縮予防, および筋力訓練効果を中心に—

日本整形外科学会(教育研修講演)2013年5月25日, 広島, 2013

日整会誌 87(3); S932, 2013

桜庭景植; 医療現場における救急処置. バスケットボール傷害を中心に.

関東大学バスケットボールトレーナー講習会.

東京, 2013/06/22.

桜庭景植; 下腿・足部のランニング障害への対応; 疲労骨折～早期発見・骨代謝マーカーを中心に～

第11回日本臨床整形外科スポーツ医懇談会

静岡, 2013/07/15

桜庭景植; 脊柱の仕組みと外傷・障害～スポーツ傷害を中心に～

西川産業スリープマスター実践講座.

東京, 2013/9/10

桜庭景植; 膝関節に対する運動療法・筋力トレーニングの up to date—血流制限下における筋萎縮予防, および筋力訓練効果を中心に—

運動器疾患/骨・関節フォーラム,

品川, 2013/11/23

桜庭景植; トップアスリートへの医科学サポート～ロンドンオリンピックを中心に～

市川市整形外科医会, 千葉, 2013/11/26

桜庭景植; スポーツ指導者に必要な医学的知識; スポーツ外傷・障害(外科系).

公認スポーツ指導者講習会, 名古屋, 2013/11/30

桜庭景植; スポーツ現場での救急処置(整形外科系)

日本医師会健康スポーツ医学講習会, 2013/12/1

桜庭景植; スポーツ外傷・障害およびその救急処置.

スポーツ指導者スキルアップ講座, 神奈川, 2013/12/07

【座長】省略

【そのほか】

日医健康プラザ No393「ストレッチングで体も心もリフレッシュ」, 2013

【研究助成金】

鈴木良雄, 桜庭景植ら; ビタミンD強化牛乳がVD栄養状態に与える効果の検討, 研究委託金; 150万円, 牛乳乳製品健康科学学術研究助成

受託研究; 熱中症対策キットの基礎および臨床研究.

桜庭景植, 丸山麻子, シンネットワーク

100万円

受託研究; ヨネックス新製品・新素材開発に関する基礎研究.

桜庭景植; ヨネックス株式会社, 100万円

【社会活動】一部

日本オリンピック委員会スポーツドクター

ヨネックススポーツ振興財団評議員(2001年より現在に至る)

鹿倉 二郎

②

—鹿倉二郎, 桜庭景植, 鳥居 俊, 飯田悠佳子: 高校3年

間のアメリカンフットボールのトレーニング参加による身体発育の検討. 日本成長学会誌, 19(1): 59-63, 2013

一和田良広, 桜庭景植, 窪田敦之, 鈴木良雄, 鹿倉二郎, 洪 定男. 高齢者と若年者の体幹筋活動の比較. 理学療法科学. 28(5): 689-693. 2013.

④

Nakaniida A, Sakuraba K, Shikakura J, Kadoya H, Anegawa L, Hurwitz E. Pediatric Orthopedic Injuries Requiring Hospitalization: Epidemiology and Economics, Pan Pacific Conference of Medicine and Science in Sports. 2013. 2. Honolulu HI

Kadoya H, Sakuraba K, Shikakura J, Nakaniida A, Ishikawa T. Quantitative tests for severity for chronic ankle instability; Can we predict ankle injury?. 2013 Pan Pacific Conference of Medicine and Science in Sport. 2013. 2. Honolulu HI

一中新井田敦子, 桜庭景植, 窪田敦之, 小林拓郎, 池田啓一, 鹿倉二郎, 新正理奈: 虚弱性高齢者における運動プログラムが歩行と QOL に与える影響. 第39回日本整形外科学会. 2013. 9. 愛知

一藤田真平, 桜庭景植, 若松健太, 鯉川なつえ, 山澤文裕, 鹿倉二郎, 窪田敦之: 大学女子長距離選手と運動習慣のない女子学生の骨代謝動態の比較. 第24回日本臨床スポーツ医学会. 2013. 10. 熊本

⑥

一公益財団法人 日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成講習会 (第4期) 講師.

内藤 久士

①

内藤久士. 村岡功編: 保健体育科教育のための生理学と運動生理学. 1章 身体運動を発現する骨格筋の機能と適応 (pp1-22), 市村出版, 東京 (2013)

内藤久士 (監修). ファミリー健康体力向上事業: 体力測定ハンドブック. 全国スポーツ推進委員連合, 東京(2013)

②

1. Ozaki H, Kakigi R, Kobayashi H, Loenneke JP, Abe T, Naito H. Effects of walking combined with restricted leg blood flow on mTOR and MAPK signaling in young men. *Acta Physiol (Oxf)*. [Epub ahead of print]

2. Kakigi R, Yoshihara T, Ozaki H, Ogura Y, Ichinoseki-Sekine N, Kobayashi H, Naito H. QRPYBRUGWhey protein intake after resistance exercise activates mTOR signaling in a dose-dependent manner in human skeletal muscle. *Eur J Appl Physiol*. [Epub ahead of print]

3. Sakamoto A, Naito H, Chow CM. Hyperventilation as a strategy for improved repeated sprint performance. *J Strength Cond Res*. (2013) [Epub ahead of print]

4. Yoshihara T, Naito H, Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Ogura Y, Sugiura T, Katamoto S. Heat stress activates the Akt/mTOR signaling pathway in rat skeletal muscle. *Acta Physiol (Oxf)*. 207(2): 416-26 (2013)

5. Ozaki H, Yasuda T, Ogasawara R, Sakamaki-Sunaga M, Naito H, Abe T. Effects of high-intensity and blood flow-restricted low-intensity resistance training on carotid arterial compliance: role of blood pressure during training sessions. *Eur J Appl Physiol*. 113(1): 167-74 (2013)

6. Miyahara Y, Naito H, Ogura Y, Katamoto S, Aoki J. Effects of proprioceptive neuromuscular facilitation stretching and static stretching on maximal voluntary contraction. *J Strength Cond Res*. 27(1): 195-201 (2013)

③

1. 内藤久士. 運動刺激を構成する要素. 体育の科学63(8): 697-600 (2013)

平成24年度 体力・運動能力調査報告書 (内藤久士, 廣津信義, 関根紀子他). 文部科学省 (2013)

2. 平成25年度 全国体力・運動能力, 運動習慣等調査結果報告書 (平成25年度全国体力・運動能力, 運動習慣等調査検討委員会 浅見俊雄, 内藤久士他). 文部科学省 (2013)

④

国際(海外)学会発表

1. Chang Shuo-wen, Naito H. A Comparison of Physical Fitness of junior high school students between Chinese School and Japanese public school in Japan. The 6th Asia-Pacific Conference on Exercise and Sports Science, Taipei, Taiwan, 2013年11月
2. Sakamoto A, Naito H., Chow CM. Hyperventilation as a strategy for improved repeated sprint performance. 2013 Asics Conference of Science and Medicine in Sport (ACSMS), Phuket, Thailand, 2013年10月
3. Ichinoseki-Sekine N, Kakigi R, Nakagata T, Miura S, and Naito H. Whey peptide HW3 supplementation suppress body fat accumulation by maintained basal metabolism. 2013 Asics Conference of Science and Medicine in Sport (ACSMS), Phuket, Thailand, 2013年10月
4. Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Kakigi R, Tsuzuki T, Sugiura T, Powers SK, Naito H. Repeated Heat Treatment Attenuates the Rat Diaphragmatic Contractile Dysfunction Induced by Mechanical Ventilation. 34th Annual Meeting International Gravitational Physiology, Toyohashi, Aichi, 2013年7月
5. Ishihara Y, Naito H., Yoshimura M. Physical demands of football assistant referees in University-level matches. The European College of Sport Science 18th Annual Meeting, Barcelona, Spain, 2013年6月
6. Ozaki H, Naito H., Kitada T, Katamoto S. High intensity walk may attenuate muscle hypertrophy by combined circuit training in older women. The American College of Sports Medicine 60th Annual Meeting, Indianapolis, USA, 2013年5月.
7. Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Kakigi R, Sugiura T, Powers SK, Kawai S, Naito H. Effects of heat stress on mechanical ventilation-induced atrophy in rat diaphragm. Experimental Biology 2013, Boston, USA, 2013年4月
8. Kakigi R, Naito H., Yoshihara T, Ozaki H, Kobayashi H, Okada T.

Submaximal cycling exercise stimulates mTOR signaling pathway in human skeletal muscle. Experimental Biology 2013, Boston, USA, 2013年4月

9. Tsuzuki T, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Kobayashi H, Naito H. Voluntary exercise at young stage prevents glucose intolerance in type 2 diabetic rats. Experimental Biology 2013, Boston, USA, 2013年4月

国内学会発表・シンポジウム

1. 石原美彦, 内藤久士, 青葉幸洋, 岡本一洋, 吉村雅文. サッカー審判員の移動特性. 日本フットボール学会 11th Congress, 平塚, 神奈川, 2013年12月
2. 尾崎隼朗, 棗 寿喜, 渡辺圭佑, 内藤久士. 受動的な関節運動及び筋収縮と血流制限の組み合わせが筋肥大に及ぼす影響. 第26回トレーニング科学学会大会, 上山, 山形, 2013年11月
3. 棗 寿喜, 尾崎隼朗, 渡辺圭佑, 内藤久士. 受動的な関節運動及び筋収縮と血流制限の組み合わせが大腿四頭筋の発揮筋力に及ぼす影響. 第26回トレーニング科学学会大会, 上山, 山形, 2013年11月
4. 杉浦崇夫, 芝口 翼, 宮司進之, 吉原利典, 内藤久士, 大森大二郎, 後藤勝正, 吉岡利忠. 筋萎縮に対する Astaxanthin 摂取の効果. 第9回アスタキサンチン研究会, 東京, 2013年9月
5. 内藤久士. 子どもの体力科学研究再考～子どもの健全な発育発達のために我々は何をすべきか～. (オーガナイザー) 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月. 体力科学63(1): 22; (2014)
6. 関根紀子, 柿木 亮, 三浦 晋, 内藤久士. ホエイタンパク質分解物の長期摂取は骨格筋における脂肪酸酸化を促進し体脂肪量の蓄積を抑制する. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月. 体力科学62(6): 510; (2013)
7. 坂本彰宏, 内藤久士. 過換気が繰り返し等速性最大筋収縮運動のパフォーマンスとEMGに及ぼす効果. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月. 体力科学62(6): 621; (2013)

8. 柿木 亮, 内藤久士, 吉原利典, 尾崎隼朗, 都築孝允, 小林裕幸, 岡田隆夫. 最大下自転車運動によるヒト骨格筋 Akt/mTOR シグナル伝達の経時変化. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月. 体力科学62(6): 504; (2013)
 9. 尾崎隼朗, 柿木 亮, 内藤久士. ラット骨格筋の過負荷による mTOR シグナル伝達経路の活性化に持久性運動における強度の違いが及ぼす影響. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月. 体力科学62(6): 588; (2013)
 10. 棗 寿喜, 尾崎隼朗, 坂本彰宏, 齋藤アソネ優子, 内藤久士. EMS 機器を用いた大腿四頭筋への電気刺激が NK 細胞活性に与える影響. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月. 体力科学62(6): 535; (2013)
 11. 中瀧 崇, 内藤久士, 形本静夫. ニコチンパッチが安静時エネルギー代謝に及ぼす影響. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月. 体力科学62(6): 605; (2013)
 12. 吉原利典, 関根紀子, 柿木 亮, 都築孝允, 杉浦崇夫, 町田修一, 内藤久士. 複数回の熱ストレス負荷は機械的人工換気に誘発される横隔膜の収縮機能低下を軽減させる. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月. 体力科学62(6): 623; (2013)
 13. 石原美彦, 内藤久士, 吉村雅文. 心拍数と移動速度を用いたエネルギー消費量の推定. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月. 体力科学62(6): 605; (2013)
 14. 北田友治, 内藤久士, 形本静夫. 800 m 走中の酸塩基平衡動態. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月. 体力科学62(6): 623; (2013)
 15. 都築孝允, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久士. 発育期の運動が2型糖尿病ラットの耐糖能および脂質代謝に与える影響. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月. 体力科学62(6): 599; (2013)
 16. 都築孝允, 内藤久士. 発育期の運動と糖尿病～モデル動物を用いた検討～. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月. 体力科学63(1): 29; (2014)
 17. 高嶺由梨, 都築孝允, 関根紀子, 吉原利典, 内藤久士. 発育期における自発運動が2型糖尿病ラットの骨組織に与える影響. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月. 体力科学62(6): 485; (2013)
 18. 鄧 鵬宇, 内藤久士. 中国湖南省における肥満児の身体活量に関する研究. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月. 体力科学62(6): 514; (2013)
 19. 張 碩文, 中村智洋, 内藤久士. 機能性スポーツウェア着用による長時間運動時の体温上昇抑制効果. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月. 体力科学62(6): 518; (2013)
 20. 中村智洋, 柿木 亮, 関根紀子, 小林裕幸, 佐久間和彦, 内藤久士. 男性短距離走者の骨格筋における ACTN3 タンパク質発現量と筋線維組成. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月. 体力科学62(6): 528; (2013)
 21. 杉浦崇夫, 芝口 翼, 後藤勝正, 吉原利典, 内藤久士, 吉岡利忠. 刺激温度条件の違いが筋損傷後の再生過程の生化学的特性に及ぼす影響. 第21回日本運動生理学会, 埼玉, 2013年8月. *Advances in Exercise and Sports Physiology* 19: 4 proceedings, 131; (2013)
 22. 吉原利典, 柿木 亮, 高嶺由梨, 杉浦崇夫, 内藤久士. 異なる強度および時間の持続的トレーニングが SIRT1 シグナル伝達に及ぼす影響. 第21回日本運動生理学会, 埼玉, 2013年8月. *Advances in Exercise and Sports Physiology* 19: 4 proceedings, 109; (2013)
 23. 内藤久士. 骨格筋はなぜ速筋線維と遅筋線維を備えているのか? (オーガナイザー). 第90回日本生理学会大会, 東京, 2013年3月.
 24. 関根紀子, 内藤久士. 速筋線維の筋萎縮—機械的人工換気による廃用性横隔膜萎縮. 第90回日本生理学会大会, 東京, 2013年3月. *日本生理学雑誌 web 版 Symposia* 75(5), 19-20 (2013)
- ⑤
1. 内藤久士. スポーツにおけるストレスタンパク質の役割と効果, *ヘルシスト* 222: 16-19 (2013)

⑥

日本学術振興会科学研究費審査

学術雑誌査読等

Acta Physiologica

American Journal of Physiology – Cell Physiology

Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology

European Journal of Applied Physiology

Geriatrics and Gerontology International

International Journal of Sports Medicine

Journal of Physiological Sciences

Journal of Physical Fitness and Sports Medicine

Journal of Basic and Clinical Physiology and Pharmacology

体力科学

日本健康体力栄養学雑誌

前任准教授

鈴木 良雄

①

1. 鈴木良雄, 澤木啓祐 (共著). 第10章 海外での利用と開発の動向. 機能性スポーツフードの開発. シーエムシー出版 (東京) pp. 89-98. 2013.

②

1. 鈴木良雄, 木元広実, 永倉ゆか, 児玉千紘, 鯉川なつえ, 櫻庭景植, 鈴木チセ, 佐々木啓介, 清水智美, 奥田美穂. 乳酸菌 *Lactococcus lactis ssp. cremoris* H61株含有ヨーグルトの継続摂取が女子大学生の肌, 便通, 体調に及ぼす影響. *New Diet Ther*, 29(1): 23-30, 2013.
2. Koikawa N, Aoki E, Suzuki Y, Sakuraba S, Nagaoka I, Aoki K, Shimmura Y, Sawaki K. Wheat gluten hydrolysate affects race performance in the triathlon. *Biomedical Reports*. 1(4): 646-650, 2013.
3. Sato K, Egashira Y, Ono S, Mochizuki S, Shimmura Y, Suzuki Y, Nagata M, Hashimoto K, Kiyono T, Park EY, Nakamura Y, Itabashi M, Sakata Y, Furuta S, Sanada H. Identification of a hepatoprotective peptide in wheat gluten hydrolysate against d-galactosamine-induced acute hepatitis in rats. *J Agric Food Chem*, 61(26): 6304-6310, 2013.
4. Yaginuma S, Sakuraba K, Kadoya H, Koibuchi E,

Matsukawa T, Ito H, Yokoyama K, Suzuki Y. Early bedtime associated with the salutary breakfast intake in Japanese nursery school children. *Int Med J*, accepted, 2013.

5. Koibuchi E, Suzuki Y. Exercise up-regulates salivary amylase in humans (Review). *Exp Ther Med*, accepted, 2013.

③

1. 鈴木良雄, 仲村 明, 長門俊介, 鯉川なつえ, 櫻庭景植, 小林 唯. 大学陸上長距離選手の栄養素充足状態および競技能力の客観指標の探索. Exploring biomarkers to indicate nutritional status and athletic performance in college distance runners. *ネスレ栄養科学会議 研究成果報告書*. 2013.

2. 鈴木良雄, 鯉川絵理, 櫻庭景植, 広沢正孝, 川田裕次郎, 門屋悠香, 五十嵐庸, 長岡 功, 横山和仁, 松川岳久, 今井啓雄. 生活習慣とAMY1遺伝子多型との関連. *霊長類研究所年報*. 43: 118, 2013.

④

1. 鯉川絵里, 鈴木良雄, 池田啓一, 中村恭子, 小林唯, 都築孝允, 長嶋泰生. 唾液アミラーゼ遺伝子 (AMY1) のコピー数とアミラーゼ活性との関係. 第20回日本健康体力栄養学会大会. 演題番号; 17, 大阪: 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス. 2013年3月16日.
2. 安藤 秀, 白府将弘, 鈴木雄大, 鈴木良雄, 木戸康博, 小川亜紀. 指標アミノ酸を酸化法を用いたたんぱく質必要量の測定に関する検討(1). 第20回日本健康体力栄養学会大会. 演題番号: 18, 大阪: 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス. 2013年3月16日.
3. 鈴木雄大, 安藤 秀, 白府将弘, 鈴木良雄, 木戸康博, 小川亜紀. 指標アミノ酸を酸化法を用いたたんぱく質必要量の測定に関する検討(2). 第20回日本健康体力栄養学会大会. 演題番号: 19, 大阪: 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス. 2013年3月16日.
4. 柳沼志帆, 門屋悠香, 櫻庭景植, 鈴木良雄. 保育園児の生活習慣と摂取エネルギー量に関する研究. 第7回日本食育学会・学術大会. 演題番号: D-5, 東京: 東京聖

- 栄大学. 2013年5月18-19日.
5. 大内信宣, 山口直人, 目加田優子, 鈴木良雄. 大学寮生の学生食堂の利用実態. 第7回日本食育学会・学術大会. 演題番号: 36, 東京: 東京聖栄大学. 2013年5月18-19日.
 6. 鈴木良雄, 目加田優子, 慶徳理子. 大学寮生の栄養素摂取状況と学生食堂の利用頻度. 第7回日本食育学会・学術大会. 演題番号: 37, 東京: 東京聖栄大学. 2013年5月18-19日.
 7. 柳沼志帆, 櫻庭景植, 門屋悠香, 松川岳久, 横山和仁, 鈴木良雄. 長野市内の保育園児の亜鉛摂取状況と生活・運動習慣等との関係. 第60回日本栄養改善学会学術総会. 演題番号: 2Dp-01, 神戸: 神戸国際会議場. 2013年9月12~14日.
 8. 鯉淵絵里, 鈴木良雄, 小林 唯. 唾液アミラーゼ遺伝子 (AMY1) のコピー数とアミラーゼ活性との関係. 第60回日本栄養改善学会学術総会. 演題番号: 2Ea-09, 神戸: 神戸国際会議場. 2013年9月12~14日.
 9. 鈴木良雄, 仲村 明, 長門俊介, 沖田磨衣, 鯉川なつえ, 櫻庭景植, 奥村 康, 竹田和由, 澤木啓祐. 乳酸菌 R-1 の摂取は持久運動に伴う免疫機能の低下を抑制する. 第68回日本体力医学会大会. 演題番号: 1I6-3, 東京: 日本教育会館. 2013年9月21~23日.
 10. 高梨雄太, 鯉川なつえ, 鈴木良雄, 沖田磨衣, 櫻庭景植, 奥村 康, 竹田和由, 澤木啓祐. 乳酸菌 R-1 の摂取は投擲選手の強化練習に伴う免疫機能の低下を抑制する. 第68回日本体力医学会大会. 演題番号: 1I6-4. 東京: 日本教育会館. 2013年9月21~23日.
 11. 鯉淵絵理, 鈴木良雄. アミラーゼ活性と幼児の成育状況および生活習慣との関係. 第68回日本体力医学会大会. 演題番号: 1F3-1, 東京: 日本教育会館. 2013年9月21~23日.
 12. 柳沼志帆, 門屋悠香, 櫻庭景植, 鈴木良雄. 幼児の運動習慣に関係のある因子に関する研究. 第68回日本体力医学会大会. 演題番号: 1F2-1. 東京: 日本教育会館. 2013年9月21~23日.
 13. Suzuki Y, Nakamura A, Nagato S, Koikawa N, Sakuraba K, Kobayashi Y. Exploring biomarkers to indicate nutritional status and athletic performance in college distance runners. 第3回食と生命のサイエンス・フォーラム. 東京: 東京大学 伊藤謝恩ホール. 2013年10月2日.
 14. 牧野聖也, 池上秀二, 狩野 宏, 浅見幸夫, 伊藤裕之, 鈴木良雄, 河合祥雄, 澤木啓祐, 長岡 功, 竹田和由, 奥村 康. 1073R-1乳酸菌で発酵したヨーグルトの摂取がインフルエンザ特異的抗体価に与える影響. 日本食品免疫学会第9回学術大会. 演題番号: P-14. 東京: 東京大学 伊藤謝恩ホール. 2013年10月17日~18日.
 15. 牧野聖也, 池上秀二, 狩野 宏, 浅見幸夫, 伊藤裕之, 鈴木良雄, 河合祥雄, 澤木啓祐, 長岡 功, 竹田和由, 奥村 康. 1073R-1 乳酸菌で発酵したヨーグルトの摂取がインフルエンザ特異的抗体価に与える影響. 第41回日本臨床免疫学会総会. 演題番号: P6-11. 下関市: 海峡メッセ下関. 2013年11月27~29日.
- ⑤
1. ランナーなら知っておきたいサプリメントの基礎知識. ランニングマガジン クリール. Sep No. 128, pp. 38-41, 2013.
- ⑥
1. 鈴木良雄. ヒトと外部環境との関わりを考える. 藤田保健衛生大学 保健学セミナー. 名古屋: 2013年7月17日
 2. 機能的食品制度 有識者・産業界に聞く①. ヘルスライフビジネス, ヘルスビジネスマガジン社, 2013/8/15 第569号: p. 6
 3. Suzuki Y, Nakadake M, Tomita T, Harada M, Kano K, Sakuraba K, Tsuji H, Takahashi T, Asahara T, Nomoto K, Yamashiro Y. Effect of a short term training session on bacterial gut microbiota in male athletes. Japan-Russia International Workshop 2013 - Infectious Diseases. 東京: 順天堂大学. 2013年10月28日.
 4. 鈴木良雄. 身体活動・スポーツと健康のメカニズム~栄養と身体活動の関係に栄養生化学からアプローチする. 第7回ヘルスプロモーション 国際シンポジウム in

さくら. 千葉: ウィンチェトンホテル・ユーカー. 2013年11月16日.

5. 「イメージ」から「機能重視」の時代へ. 健康産業新聞, UBM メディア株式会社, 2013/11/20, 第1507号: p. 14
6. 学会誌等の査読
 - 日本栄養士会雑誌 2本
 - BioMed Research International 1本
7. 外部資金(科研費除く)獲得課題等を含む.
 - H25(2013) 社団法人日本酪農乳業協会. ビタミンD強化牛乳がVD栄養状態に与える効果の検討. 1,500千円.
 - H25(2013)~H27(2015) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構. 大課題「腸脳相関を介した精神的ストレス軽減効果の評価法の開発と発酵乳製品の検証」のうち 小課題⑥「ヒト心拍変動波形解析による自律神経系を用いたストレス評価」. 4,500千円.

廣津 信義

②

The transformation of technical-tactical behaviors for hand techniques used in attacking below the belt after the 2010 International Judo Federation rule revision. Ito K, Hirose N, Nakamura M, Maekawa N, Tamura M and Hirotsu N. Science of Martial Arts, 9: 1-6, 2013 (査読有)

③

記録系・採点系・格闘技系五輪競技の数学モデリングの研究. 廣津信義. 順天堂スポーツ健康科学研究, 5(1): 16-21, 2013. (査読無)

研究成果報告書「記録系・採点系・格闘技系五輪競技の数学モデリングの研究」. 廣津信義. 科学研究費補助金(基盤研究(C) 課題番号21510159) 研究成果報告書(2013).

④

Mathematical Modelling of Team Competition in Artistic Gymnastics. Hirotsu N and Kano M. 2013年日本 OR 学会春季研究発表会(東京). 平成25年3月6日. 2013年日本

OR 学会春季研究発表会アブストラクト集, 208-209. (2013).

Probability calculation for tournament format of the 2013 World Baseball Classic. Hirotsu N. MathSport International 2013 (4th International Conference on Mathematics in Sport2013) (Leuven, Belgium), 平成25年6月15日, D. Goossens, F. Spieksma, P. Scarf (eds.) Proceedings of the 4th International Conference on Mathematics in Sport (ISBN: 9789081409964), 135-143 (2013).

野球の戦術のマルコフ決定過程による定式化. 廣津信義. 2013年日本 OR 学会秋季研究発表会(徳島). 平成25年9月12日. 2013年日本 OR 学会秋季研究発表会アブストラクト集, 132-133 (2013).

体操男子団体戦における競技方式の数学モデリング—個人得点を正規分布で表現した際の団体得点の分布計算とその応用—. 廣津信義, 原田睦巳, 加納 實. 日本体育学会第64回大会(草津). 平成25年8月29日. 予稿集, 300 (2013).

On the Benefit of the Sacrifice Bunt: Getting your Objectives Straight. Bickel E and Hirotsu N. INFORMS2013 (Institute for Operations Research and the Management Sciences Annual Meeting 2013) (Minneapolis, USA). 平成25年10月7日. Proceedings of INFORMS2013, 183 (2013).

A Relationship between DEA and Sabermetrics in Evaluation of Baseball Players. Hirotsu N and Cochran J. INFORMS 2013 (Institute for Operations Research and the Management Sciences Annual Meeting 2013) (Minneapolis, USA). 平成25年10月7日. Proceedings of INFORMS2013, 210 (2013).

⑥

招待講演:
スポーツ数理科学. 廣津信義. 平成24年度第13回佐倉アカデミア(佐倉), 平成25年1月19日.

論文査読:

Journal of Quantitative Analysis in Sports, 2件
日本オペレーションズ・リサーチ学会機関誌「オペレーションズ・リサーチ」, 2件
The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine, 1件

町田 修一

①

町田修一 (分担執筆). 運動, 老化の生物学 (石井直明編集). 化学同人, 2014年5月刊行予定.

②

Kurosaka M, Machida S. Interleukin-6-induced satellite cell proliferation is regulated by induction of the JAK2/STAT3 signalling pathway through cyclin D1 targeting. *Cell proliferation*, 46: 365-373, 2013. (査読有)

③

町田修一, 黒坂光寿. サルコペニアの予防・改善を目的とした筋力トレーニングの効果を事前に予知可能にする遺伝子多型の同定, *デサントスポーツ科学*, 34: 40-47, 2013 (査読有)

八百則和, 小山孟志, 西村一帆, 花岡美智子, 加藤 譲, 藤井壮浩, 栗山雅倫, 木村季由, 田村修治, 今川正浩, 陸川 章, 積山和明, 位高駿夫, 宮崎誠司, 町田修一, 内山秀一. 球技種目におけるフィールドテストによる運動能力評価の開発に関する研究—男女バレーボール, 男女ハンドボール, 男子バスケットボール, 男子ラグビー, 男子サッカーの種目横断的研究—, *東海大学スポーツ医科学雑誌*, 25: 37-44, 2013. (査読有)

岡本武志, 鳥居 俊, 町田修一. 短期間の不活動状態が回復期における成熟期ラットの骨密度に及ぼす影響, *東海大学短期大学紀要*46: 7-12, 2013. (査読有)

岡本武志, 鳥居 俊, 町田修一. 不活動に伴う骨量減少のメカニズム解明の為に動物モデルの検討, *東海大学短期大学紀要*, 46: 1-6, 2013. (査読有)

町田修一. サルコペニアの予防・改善を目的とした介入プログラムの開発—筋力トレーニングと栄養を組み合わせた戦略—, *体力科学*, 62: 23-24, 2013. (査読無)

④

〈国際学会〉

Itaka T, Hirokawa S, Agemizu K, Aruga S, Machida S. Polymorphism of the IGF-2 gene specifies competitive capacity of Japanese judo players, 18th annual Congress of the European

College of Sports Science, Spain, June 2013.

Agemizu K, Hirokawa S, Itaka T, Aruga S, Machida S. Association of the ACTN3 and ACE Polymorphism in Japanese judo athletes, The VIII International Judo Research Symposium, Brazil, August 2013. (1st Place Academic Poster を受賞)

〈国内学会〉

上水研一朗, 位高駿夫, 廣川彰信, 有賀誠司, 町田修一. 柔道選手における ACTN3 遺伝子多型についての研究—T 大学柔道部を対象として—, 日本武道学会第46回大会, 茨城, 2013年9月.

位高駿夫, 廣川彰信, 上水研一朗, 有賀誠司, 町田修一. 柔道の競技レベルを規定するアスリート遺伝子の探索—ACE と ACTN3 を組み合わせた検討—, 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月.

吉原利典, 関根紀子, 柿木 亮, 都築孝允, 杉浦崇夫, 町田修一, 内藤久士. 複数回の熱ストレス負荷は機械的人工換気に誘発される横隔膜の収縮機能低下を軽減させる, 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月.

都築孝允, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久士. 発育期の運動が2型糖尿病ラットの耐糖能および脂質代謝に与える影響, 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月.

北岸孝之, 坂口博英, 與名本稔, 鳥居 俊, 町田修一. 長期間の筋力トレーニング後の乳タンパク摂取が男子スポーツ選手の体組成に及ぼす影響, 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013年9月.

岡本武志, 町田修一. 不活動と筋タンパク質分解—筋線維組成によるユビキチンリガーゼ遺伝子の発現応答の差異をさぐる—, 第68回日本体力医学会大会ワークショップ14筋肥大と筋萎縮の生理学, 東京, 2013年9月.

廣川彰信, 位高駿夫, 上水研一朗, 有賀誠司, 宮崎誠司, 町田修一. 柔道選手における ACE 遺伝子多型と全身持久力の関連性について, 第24回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 熊本, 2013年10月.

八百則和, 小山孟志, 西村一帆, 花岡美智子, 加藤 譲, 藤井壮浩, 栗山雅倫, 木村季由, 田村修治, 今川正浩, 陸

川 章, 積山和明, 位高駿夫, 宮崎誠司, 町田修一, 内山秀一. 球技種目におけるフィールドテストによる運動能力評価の開発に関する研究—男女バレーボール, 男女ハンドボール, バスケットボール, ラグビー, サッカーの種目横断的研究—, 第11回日本フットボール学会, 神奈川, 2013年12月.

⑥

➤ 講演

- 町田修一, サルコペニア発症のメカニズムとその予防・改善方法の開発, 第8回湘南スポーツドクターの集い, 神奈川, 2013年3月13日.
- 町田修一, 寝たきり高齢者をゼロにするための運動と栄養 ~加齢に伴う筋委縮とスポーツ活動について~, 秦野市健康セミナー, 神奈川, 2013年3月16日.
- 町田修一, 分子, 細胞レベルから覗く骨格筋研究, 名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科セミナー, 愛知, 2013年4月19日.
- 町田修一, 介護・寝たきりにならない身体づくりを創造する —高齢者をサポートする運動と栄養の効果的な組み合わせを探る—, 第68回日本体力医学会大会ランチョンセミナー, 東京, 2013年9月19日
- 町田修一, 指導現場で生きる高齢者運動指導を学ぶ講座 ①現場指導で知っておくべき骨格筋老化の基礎知識, Jafa FITNESS 座学~THE MANABI~, 東京, 2013年8月13日.
- 町田修一, 指導現場で生きる高齢者運動指導を学ぶ講座 ②高齢者の介護・寝たきりを防止するため運動プログラム作成, Jafa FITNESS 座学~THE MANABI~, 東京, 2013年8月13日.
- 町田修一, 指導現場で生きる高齢者運動指導を学ぶ講座 ③サブタイトル: 高齢者の介護・寝たきりを防止するため運動プログラムの評価, Jafa FITNESS 座学~THE MANABI~, 東京, 2013年8月13日.
- Machida S. Protein Requirements and Guidelines in the Japan. What is ideal for Aging Societies? U.S. Whey Protein Health and Nutrition Scientific Discovery Tour to

the USA, Washington DC 2013, September 29 – October 3, 2013.

➤ 発表会

- 亀岡 舞, 菅野綾夏, 町田修一. 乳タンパク摂取が女性の筋力トレーニングによる身体組成の変化及び運動時のエネルギー代謝に及ぼす影響. 第2回サイエンスインカレ (口頭発表部門), 2013年3月

➤ 学会誌等の査読経験 (雑誌名記載のこと)

- Journal of Cellular Physiology
- Mediators of Inflammation
- Biological Trace Element Research
- The Journal of Physiological Sciences
- 日本体育測定評価学会

➤ 外部資金 (科研費除く) 獲得

『民間研究助成』

- サルコペニアの予防・改善を目的とした筋力トレーニングの効果を事前に予知可能にする遺伝子多型の同定, 第34回石本記念デサントスポーツ科学. (研究代表者: 町田修一)
- 筋の記憶を司るエピジェネティクス制御機構の探索, 公益財団法人 明治安田厚生事業団・第30回 (平成25年度) 若手研究者のための健康科学研究助成. (研究代表者: 吉原利典, 共同研究者: 町田修一)

『受託研究』

- 体組成の改善を促進する機能性食品の探索と評価研究. (研究代表者: 町田修一)

柳谷登志雄

②

1. 岡田純一, 柳谷登志雄, 倉持梨恵子, 鳥居 俊. マスターズ・ウエイトリフティング選手の骨密度, 筋力, 筋断面積から見た高強度レジスタンストレーニングの影響. スポーツ科学研究, 10, pp49-61, 2013.

④

1. 柳谷登志雄, 久住亮介, 渡辺圭佑. 光学式および加速時計式モーションキャプチャシステムによる体操競技・あん馬の動作解析データの比較. 日本トレーニング科学会. 2013年11月.

2. 高橋恭平, 松尾彰文, 広川龍太郎, 柳谷登志雄, 貴嶋孝太, 松林武生, 山本真帆, 綿谷貴志, 渡辺圭佑.
トップスプリンターの200 mにおける走パフォーマンス分析. 九州体育・スポーツ学会.
- ⑤
- 1) 柳谷登志雄. 「現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第7回目「乳酸」を知って競技力向上を図ろう。」
コーチングクリニック 2013年2月号, pp. 67-71. ベースボールマガジン社
 2. 柳谷登志雄. 「現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第8回目 地面反力の解析からわかる力発揮が及ぼす影響。」
コーチングクリニック 2013年3月号, pp. 67-71. ベースボールマガジン社
 3. 柳谷登志雄. 「現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第9回目 筋線維のタイプを考慮すると競技力向上に役立つかもしれない。」
コーチングクリニック 2013年4月号, pp. 63-67. ベースボールマガジン社
 4. 柳谷登志雄. 「現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第10回目 力学的エネルギーを理解しよう。」
コーチングクリニック 2013年5月号, pp. 67-71. ベースボールマガジン社
 5. 柳谷登志雄. 「体幹トレーニングで強くなる。」
中学部活応援マガジン熱中陸上部, Vol 15, pp14-25, 2013. ベースボールマガジン社
 6. 柳谷登志雄. 「効率のいいフォームで走る. 決定版! 速く走る走り方。」
中学部活応援マガジン熱中陸上部, Vol16, pp14-23, 2013. ベースボールマガジン社
 7. 柳谷登志雄. 「現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第11回目「運動量」の力学的な意味を知ろう。」
コーチングクリニック 2013年6月号, pp. 67-70. ベースボールマガジン社
 8. 柳谷登志雄. 「現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第12回目 大腰筋は30 m ダッシュのキーマッスルなのか?」
コーチングクリニック 2013年7月号, pp. 71-75. ベースボールマガジン社
 9. 柳谷登志雄. 「現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第13回目 コンプレッションウェアは競技パフォーマンスを高めるのか?」
コーチングクリニック 2013年8月号, pp. 71-75. ベースボールマガジン社
 10. 柳谷登志雄. 「現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第14回目 GPSウォッチを活用してランニングのトレーニング量をコントロールする」
コーチングクリニック 2013年9月号, pp. 75-79. ベースボールマガジン社
 11. 柳谷登志雄. 「現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第15回目 スティフネスを指標にバネ能力を評価する。」
コーチングクリニック 2013年10月号, pp. 75-79. ベースボールマガジン社
 12. 柳谷登志雄. 「現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第16回目 続・スティフネスを指標にバネ能力を評価する。」
コーチングクリニック 2013年11月号, pp. 72-75. ベースボールマガジン社
 13. 柳谷登志雄. 「人類最速記録はどこまで伸びる可能性があるのか?」
コーチングクリニック. 2013年11月号, pp. 3-4. ベースボールマガジン社
 14. 柳谷登志雄. 「現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第16回目 エネルギー供給能力を強化するインターバル・トレーニング。」
コーチングクリニック 2013年11月号, pp. 72-78. ベースボールマガジン社
 15. 柳谷登志雄, 渡辺圭佑. 2013大分インターハイ技術分析前編 男子100 m. 陸上競技マガジン2013年11月号, P31.
 16. 柳谷登志雄, 松尾彰文, 福田厚治, 渡辺圭佑, 山元康平, 木村友哉, 和田純弥. 2013大分インターハイ技術分析前編 女子100 m. 陸上競技マガジン2013年11月号, P32.
 17. 柳谷登志雄, 渡辺圭佑. 2013大分インターハイ技術

分析前編 女子200 m. 陸上競技マガジン2013年11月号, P147.

18. 渡辺圭佑, 柳谷登志雄. 大分インターハイ技術分析前編 男子4×100 mR. 陸上競技マガジン2013年11月号, P154.
19. 柳谷登志雄, 松尾彰文, 福田厚治, 高橋恭平, 渡辺圭佑, 山元康平, 木村友哉, 和田純弥. 大分インターハイ技術分析前編 男子200 m. 陸上競技マガジン2013年11月号, P154.
20. 渡辺圭佑, 柳谷登志雄, 松尾彰文, 福田厚治, 高橋恭平, 山元康平, 木村友哉, 和田純弥. 大分インターハイ技術分析前編 女子4×400 m. 陸上競技マガジン2013年11月号, P154.

⑥

1. 千葉県体育協会社会体育公認指導員等養成講習会講師 2013年8月
2. 佐倉市民カレッジ健康づくりコース講師2013年9月
3. 平成25年度順天堂大学生涯学習公開講座(第2回陸上教室)講師2013年10月
4. 「瞬足陸上教室@宮城県白石市」講師. 2013年11月
5. 東京スポーツ祭り2013「(4)瞬足陸上教室」講師. 2013年10月
6. 東京都江東区立水神小学校陸上教室講師, 2013年11月.
7. 「第7回ヘルスプロモーション国際シンポジウム in さくら」講師
8. 佐倉市民カレッジ健康づくりコース講師2013年12月
9. 千葉県スポーツ推進委員連合会拡大女性部交流会講師 2012年1月
10. 日本陸連 U-19ジュニア強化研修合宿【東北ブロック】指導者講習会講師 2013年12月

テレビ出演

1. 『現場発! 「頂点をめざした夏～インターハイ・高校アスリート熱闘の記録」』, 熊本県民放送, 2013年8月
2. 『アゲるテレビ』, フジテレビ, 2013年8月

助教

河村 剛光

②

1. Kohmura Y., Murakami S., and Aoki, K. Effect of Yellow-Tinted Lenses on Visual Attributes Related to Sports Activities. *Journal of Human Kinetics*. volume 36, 27-36, 2013.
2. Murakami S., Ohto-Fujita E., Kohmura Y., Shiraishi Y., Aoki K., and Sawaki K., Hamano R. Current situation regarding visual correction methods in university athletes and associated issues. *日本臨床スポーツ医学会誌* 21 (3), 658-663, 2013.

③

1. 体格体力累加測定委員会. 2012年度順天堂大学体格体力累加測定. 順天堂スポーツ健康科学研究. 第4巻 Supplement, 11-21, 2013.

④

1. 河村剛光, 村上茂樹, 川田裕次郎, 丸山祐貴, 高田将, 青木和浩. 大学スポーツ選手が使用するサングラスに関する調査. 第20回スポーツビジョン研究集会. 2013.
2. 河村剛光, 窪田敦之, 青葉幸洋, 中田 学, 青木和浩. 速度の異なる直球を用いた打撃練習と見るトレーニングが打撃能力に及ぼす影響. *日本トレーニング科学会第26回大会*, 2013.
3. 青木和浩, 河村剛光, 中丸信吾, 渡辺圭祐, 越川一紀. 大学アスリートにおける跳躍能力とハウディングの関係. *日本陸上競技学会第12回大会*, p27. 2013.
4. 高田 将, 佐久間和彦, 河村剛光, 青木和浩. 小学生に対するジャンプトレーニングが疾走動作及び跳躍動作に及ぼす影響. *日本陸上競技学会第12回大会*, p34. 2013.
5. 丸山祐貴, 河村剛光, 和田純也, 佐久間和彦, 青木和浩. 110 m ハードル走の各局面における疾走能力とフィールドテストとの関連. *日本陸上競技学会第12回大会*, p37. 2013.

木藤 友規

③

平成24年度競技者・指導者等のスポーツキャリア形成支援事業における「スポーツキャリア大学院プログラム」事業完了報告書(文部科学省委託事業)

平成24年度チーム「ニッポン」マルチサポート事業研究成果報告書

④

バスケットボール経験者における反射的な注意移動の特性, 第68回日本体力医学会大会

窪田 敦之

②

桜庭景植, 若松健太, 窪田敦之, 藤田真平, 山澤文裕. 女子長距離ランナーと骨粗鬆症・疲労骨折～骨代謝マーカーおよび骨質関連マーカーを中心に～. 日本臨床スポーツ医学会誌. 21(3): 561-564, 2013

和田良広, 桜庭景植, 窪田敦之, 鈴木良雄, 鹿倉二郎, 洪定男. 高齢者と若年者の体幹筋活動の比較. 理学療法科学. 28(5): 689-693, 2013.

③

鈴木良雄, 河村剛光, 窪田敦之, 荻原朋子, 青葉幸洋, 門屋悠香, 佐賀典生. 非侵襲的な手法を用いて日常および動作時の代謝を科学する. 順天堂スポーツ健康科学研究. 4Suppl: 6, 2013

④

【国外学会発表】

Wakamatsu K, Sakuraba K, Fujita S, Kubota A. ASSOCIATION BETWEEN THE STRESS FRACTURE AND BONE METABOLISM MARKERS IN FEMALE COLLEGIATE ATHLETES-FOCUS ON 'TRACP-5b' AS A NEW BONE METABOLISM MARKERS-. The 18th Annual Congress of European College of Sport Science. 2013. 6. Barcelona

【国内学会発表】

窪田敦之, 桜庭景植, 藤田芳正, 藤田真平, 洪定男. 血流制限下で行う低強度の遠心性トレーニングの効果. 第39

回日本整形外科スポーツ医学会. 2013. 9. 愛知

石川拓次, 桜庭景植, 藤田真平, 窪田敦之, 若松健太. 女子中・長距離競技者における月経状況および疲労骨折受傷時の骨吸収動態についての検討. 第39回日本整形外科スポーツ医学会. 2013. 9. 愛知

中新井田敦子, 桜庭景植, 窪田敦之, 小林拓郎, 池田啓一, 鹿倉二郎, 新正理奈. 虚弱性高齢者における運動プログラムが歩行とQOLに与える影響. 第39回日本整形外科スポーツ医学会. 2013. 9. 愛知

藤田芳正, 桜庭景植, 窪田敦之, 藤田真平, 青木和浩. 高校男子サッカー選手における足趾把持筋力とターン動作時の足底圧分布の関係. 第39回日本整形外科スポーツ医学会. 2013. 9. 愛知

藤田真平, 桜庭景植, 佐久間和彦, 柳谷登志雄, 窪田敦之. スプリンターの下肢筋力および体幹部筋と100m走における加速能力との関係. 第68回日本体力医学会大会. 2013. 9. 東京

大野日向, 桜庭景植, 窪田敦之. 異なるステップ動作における膝関節傷害発生リスクの評価. 第24回日本臨床スポーツ医学会. 2013. 10. 熊本

藤田真平, 桜庭景植, 若松健太, 鯉川なつえ, 山澤文裕, 鹿倉二郎, 窪田敦之. 大学女子長距離選手と運動習慣のない女子学生の骨代謝動態の比較. 第24回日本臨床スポーツ医学会. 2013. 10. 熊本

河村剛光, 窪田敦之, 青葉幸洋, 中田学, 青木和浩. 速度の異なる直球を用いた打撃練習と見るトレーニングが打撃能力に及ぼす影響. 第26回日本トレーニング科学学会大会. 2013. 11. 山形

福士徳文, 桜庭景植, 吉村雅文, 窪田敦之, 青葉幸洋. シューズの相違がターン動作における足底圧に及ぼす影響～第5中足骨疲労骨折との関連を中心に～. 第26回日本トレーニング科学学会大会. 2013. 11. 山形

⑥

東京都医師会・すみだ医師会産業医研修会. 「地域・職場で役に立つ運動療法の実践」実技指導. 2013. 2.

第68回日本体力医学会大会: 一般演題「低・高酸素環境」
座長. 2013. 9

コーチング科学コース

教授

加納 實

②

1. 採点規則の改訂に伴うあん馬の演技構成に関する一考察

原田陸巳・加納 實・小西康仁・富田洋之
体操競技・器械運動研究21号: 1-10 (2013. 3)

2. 跳馬における「前転とび前方かかえ込み2回宙返り(ローチェ)」の技術に関する研究

西村 隼・加納 實・小西康仁
体操競技・器械運動研究21号: 11-21 (2013. 3)

3. 棒高跳の踏切局面におけるポール操作に関する研究
河波陽一・廣瀬健一・木村友哉・柳谷登志雄・加納
實・青木和浩

陸上競技研究第93号: 23-33 (2013)

③

1. 施設設備の設置に関する基本調査プロジェクト
～民間クラブで新設された「体操競技場」の事例～
竹田幸夫・加納 實

体操競技・器械運動研究21号: 49-53 (2013. 3)

④

[国内学会発表]

1. あん馬における「縦向き旋回1回ひねり(シュピンドル)」の技術に関する研究

久住亮介・加納 實
日本体操競技・器械運動学会第27回学会大会 (2013. 12)

2. 体操男子団体戦における競技方式の数学モデリング
—個人得点を正規分布で表現した際の団体得点の分布計算とその応用—

廣津信義・原田陸巳・加納 實
日本体育学会64回大会 (2013. 8)

⑥

1. Effect of a short term training session on bacterial gut

microbiota in male athletes.

Suzuki Y, Nakadake M, Tomita Y, Harada M, Kano M, Sakuraba K, Tsuji H, Takahashi T, Asahara T, Nomoto K, Yamashiro Y.

Japan-Russia International Workshop (2013. 10)

佐久間和彦

②

2013 Bentham Science Publishers

Analyses of Associations Between Reactive Oxygen Metabolites and Antioxidant Capacity and Related Factors Among Healthy Adolescents

Kazuyoshi Tamae, Toshiharu Eto, Kazuhiro Aoki, Shingo Nakamaru, Kazunori Koshikawa, Kazuhiko Sakuma and Takeshi Hirano

④

①24回臨床スポーツ医学学術集会 (2013年11月)

- ②牽引走(超高速疾走)トレーニング中に発生するハムストリング肉ばなれの予防法

杉浦雄策, 佐久間和彦, 櫻庭景植

日本陸上競技学会第12回大会 (2013年12月)

- ③小学生に対するジャンプトレーニングが疾走動作及び跳躍動作に及ぼす影響

高田 将, 佐久間和彦, 河村剛光, 青木和浩

日本陸上競技学会第12回大会 (2013年12月)

- ④110 m ハードル走の各局面における疾走能力とフィールドテストとの関連

丸山祐貴, 和田純也, 河村剛光, 佐久間和彦, 青木和浩

菅波 盛雄

④

1. Yves CADOT, Morio Suganami, How important is Japanese judo, as viewed by a foreigner.

武道学研究 第46巻 別冊 57, 2013

2. Abdoulaye Gueye, Yves CADOT, Ryouzuke Ozaki, Shigeo Suzuki, Morio Suganami, Investing on actual situation of youth judo teaching in France. 武道学研究 第46

巻 別冊 140, 2013

3. Ryouzuke Ozaki, Abdoulaye Gueye, Shigeo Suzuki, Yves CADOT, Morio Suganami, Investigation into instruction actual situation in the boy judo in Japan. Proceedings of the 2013 International Budo Conference 94-95 2013

⑤

1. 菅波盛雄. 第8回国際柔道研究シンポジウム報告. 武道 平成25年11月号(通巻564号) 218-219 2013
2. 菅波盛雄, 桐生習作. 平成24年度 全日本柔道形競技大会. 柔道 84巻1号 78-88 2013
3. 菅波盛雄, 小崎亮輔. 平成25年度 全日本柔道形競技大会. 柔道 84巻12号 50-62 2013

⑥

1. 菅波盛雄. 66年継続する東北・北海道対抗柔道大会. 全柔連だより 49号 10 2013

鈴木 大地

②

「競泳選手における短距離高強度インターバルトレーニングがストローク特性に与える影響」: 高橋祐太, 鈴木大地. スポーツパフォーマンス研究2013. Vol 5: 272-278

⑤

- 1月5日毎日新聞スポーツ面「時評点描」コラム執筆
 2月16日毎日新聞スポーツ面「時評点描」コラム執筆
 3月23日毎日新聞スポーツ面「時評点描」コラム執筆
 4月16日毎日新聞スポーツ面「日本選手権」について解説
 6月15日毎日新聞スポーツ面「時評点描」コラム執筆
 7月8日毎日新聞生活面「水泳の水慣れ」について解説
 7月9日毎日新聞生活面「水泳の息継ぎ」について解説
 7月10日毎日新聞生活面「水泳の泳ぎ」について解説
 7月20日毎日新聞スポーツ面「時評点描」コラム執筆
 8月2日毎日新聞スポーツ面「世界水泳選手権」について解説
 8月5日公益財団法人海上保安協会「Umimori」海について解説
 8月6日毎日新聞スポーツ面「世界水泳選手権」について解説

- 8月31日毎日新聞スポーツ面「時評点描」コラム執筆
 9月1日海風舎「島へ」オープンウォータースイミング競技と環境問題について解説
 10月12日毎日新聞スポーツ面「時評点描」コラム執筆
 11月4日毎日新聞関西版企画特集「大阪水泳協会100周年」解説
 11月15日千葉県総合教育センター「千葉教育」提言(コラム執筆)
 11月16日毎日新聞スポーツ面「時評点描」コラム執筆
 12月28日毎日新聞スポーツ面「時評点描」コラム執筆

長登 健

④

2013年10月12日 日本生涯スポーツ学会第15回大会(ポスター発表)
 「日本の生涯スポーツ政策における地域スポーツクラブ育成の変遷」

⑤

長登 健: ダンスの授業実践・研究活動に期待されていること. 女子体育 vol. 56-12・1: 68-69, 2013-2014

⑥

- ・社会貢献活動等
 2013年8月17日 日本体育・スポーツ哲学会第35回大会特別シンポジウム シンポジスト
 2013年8月29日 印西市小中学校体育科研修会 講師
 2013年8月31日 富山県体育協会・平成25年度地域スポーツクラブスキルアップ研修会 講師
 2013年9月2日 東京都中央区教育委員会・平成25年度中学校部活動指導者研修会 講師
 2013年9月15日 順天堂大学スポーツ医学研究会 講師
 2013年10月3日 平成25年度富山県高等学校教育研究発表大会 講演
 2013年10月24日 東京都中央区教育委員会・教務主任研修会 講師
 2013年11月6日 東京女子体育大学・短期大学FD研修会 講師

濱野 光之

③

1. 濱野光之. 2012年度「学生生活満足度調査報告」報告

書

順天堂スポーツ健康科学研究第4巻 Supplement
平成25年3月発行

吉村 雅文

②

1. Kaori Saito, Masafumi Yoshimura, Tomoko Ogiwara
Pass Appearance Time and pass attempts by teams qualifying for the second stage of FIFA World Cup 2010 in South Africa -All 48 group stage matches-
Football Science Vol. 10, 65-69, 2013

④

1. 加藤淳司, 内田靖之, 島 洋佑, 井戸田仁, 吉村雅文. 第27回ユニバーシアード競技大会(2013/カザン)男子サッカー日本代表選手のフィジカル測定結果について 第24回日本臨床スポーツ医学会, 大会研究発表抄録集
2. 内田靖之, 加藤淳司, 増田研一, 吉村雅文, 下河内洋平, 島 洋佑. 大学生サッカー選手におけるフィジカル要素の傾向 —一部リーグ所属選手とユニバーシアード代表候補選手の比較— 第24回日本臨床スポーツ医学会, 大会研究発表抄録集
3. 石原美彦, 内藤久士, 青葉幸洋, 岡本一洋, 吉村雅文. サッカー審判員の移動特性に関する研究 第11回日本フットボール学会抄録集, p16, 2013.
4. 吉村雅文, 青葉幸洋, 福士徳文, 島 佑, 岡本一洋, 石原美彦, 渡辺圭佑, 柳谷登志雄. 女子サッカーの競技力向上を目指して大腿前部の筋厚, ジャンプテスト, BIO-DEXの結果から 第11回日本フットボール学会抄録集, 2013.
5. 島 佑, 吉村雅文, 青葉幸洋, 福士徳文, 岡本一洋. 日本人サッカー選手のACTN3遺伝子型に関する研究 第11回日本フットボール学会抄録集, 2013.

6.

岡本一洋, 吉村雅文, 福士徳文. 女子サッカー選手のパスに関する研究 第11回日本フットボール学会抄録集, 2013.

⑥

【講演】

1. 吉村雅文. 「コーチングについて—サッカー指導者として大事にしているもの—」平成25年度第33回千葉県私立高等学校サッカー大会 基調講演, 8/17, 2013
2. 吉村雅文. 「サッカーを通じた人材育成について」日本経営工学会人間・組織研究部門 一人間工学人材育成研究会 — 2013年度夏季産学連携プロジェクト基調講演, 8/23, 2013

【査読】

1. 吉村雅文. 体育学研究
2. 吉村雅文. 順天堂スポーツ健康科学研究

【新聞】

1. 吉村雅文, 名将にみるマネジメント術「日本の長所貫き「銅」獲得」, 日経産業新聞, 2013年9月6日(金曜日)
2. 吉村雅文, 名将にみるマネジメント術「経験蓄積へ起用勝利導く」, 日経産業新聞, 2013年9月13日(金曜日)

先任准教授 青木 和浩

②

1. Koikawa N, Aoki E, Suzuki Y, Sakuraba S, Nagaoka I, Aoki K, Shimmura Y, Sawaki K. Wheat gluten hydrolysate affects race performance in the triathlon. Biomedical Reports. 1(4): 646-650, 2013.
2. Kohmura Y, Murakami S, Aoki K. Effect of Yellow-Tinted Lenses on Visual Attributes Related to Sports Activities.

Journal of Human Kinetics 36, 27-36, 2013.

3. Tamae K, Eto T, Aoki K, Nakamaru S, Koshikawa K, Sakuma K, Hirano T. Analyses of Associations Between Reactive Oxygen Metabolites and Antioxidant Capacity and Related Factors Among Healthy Adolescents. *Current Aging Science*, 6(3), 1874-6098, 2013.
4. Murakami S, Ohto-Fujita E, Kohmura Y, Shiraiishi Y, Aoki K, Sawaki K, Hamano R. Current situation regarding visual correction methods in university athletes and associated issues. *日本臨床スポーツ医学誌*, 21(3), 658-663, 2013.
5. 河波陽一, 廣瀬健一, 木村友哉, 柳谷登志雄, 加納實, 青木和浩. 棒高跳の踏切局面におけるポール操作に関する研究. *陸上競技研究*. 93, 23-33, 2013.

③

1. 廣瀬健一, 高梨雄太, 青木和浩, 金子今朝秋. ハンマー投競技者のパフォーマンスとコントロールテストの関連性について. *陸上競技研究*. 92, 38-44, 2013.
2. 青木和浩, 廣瀬伸良, 他 6 名. 2012年度順天堂大学体格体力累加測定. *順天堂大学スポーツ健康科学研究 4*, supplement, 11-22, 2013

④

1. 河村剛光, 村上茂樹, 川田裕次郎, 丸山祐貴, 高田将, 青木和浩. 大学スポーツ選手が使用するサングラスに関する調査. 第20回スポーツビジョン研究集会, 2013.8
2. 河村剛光, 窪田敦之, 青葉幸洋, 中田 学, 青木和浩. 速度の異なる直球を用いた打撃能力に及ぼす影響. *日本トレーニング科学学会第26回大会*, 2013. 11
3. 青木和浩, 河村剛光, 中丸信吾, 渡辺圭祐, 越川一紀. 大学アスリートにおける跳躍能力とバウンディングの関係. *日本陸上競技学会第12回大会*, 2013. 12
4. 木村友哉, 渡辺圭祐, 柳谷登志雄, 越川一紀, 青木和浩. 走幅跳における踏切準備動作と跳躍パフォーマンスの関係—踏切前 2 歩に着目して—. *日本陸上競技学会第*

12回大会, 2013. 12

5. 高田 将, 佐久間和彦, 河村剛光, 青木和浩. 小学生に対するジャンプトレーニングが疾走動作及び跳躍動作に及ぼす影響. *日本陸上競技学会第12回大会*, 2013. 12
6. 廣瀬健一, 大山卍圭吾, 高梨雄太, 青木和浩. 高重量ハンマーを使用したトレーニングがハンマー投パフォーマンス及び投動作に及ぼす影響. *日本陸上競技学会第12回大会*, 2013. 12
7. 丸山祐貴, 河村剛光, 和田純也, 佐久間和彦, 青木和浩. 110 m ハードル走の各局面における疾走能力とフィールドテストとの関係. *日本陸上競技学会第12回大会*, 2013. 12

⑥

1. 「連続写真で見る陸上競技の技術」世界のトップアスリートに学ぶスーパーテクニク (男子走幅跳; メンコフ) の解説. *月刊陸上競技*12月号, 2013
2. 平成24年度横須賀市運動部活動指導者研修会 講師「競技力向上を目指した体カトレーニングの実践」2013年1月4日
3. 平成24年度葛飾区スポーツ指導員養成講習会 講師「発育・発達・老化とスポーツプログラム」2013年2月24日
4. 平成25年度栃木県南地区スポーツ活動指導者講演会 講師「健康づくり—よりアクティブな生活を目指して—」2013年6月16日
5. しすい青樹堂1期生講座 講師「中高年の体力づくり」2013年11月13日
6. 第22回順天堂大学医療看護学部公開講座 講師「運動が得意になるのはなぜ? 不得意になるのはなぜ?」2013年11月16日
7. 学会誌等の査読

日本コーチング学研究	1本
陸上競技研究	2本

鯉川なつえ

②

Wheat gluten hydrolysate affects race performance in the triathlon: Natsue Koikawa, Emi Aoki, Yoshio Suzuki, Keishoku Sakuraba, Isao Nagaoka, Kazuhiro Aoki, Yuki Shimmura, Keisuke Sawaki, *Biomedical Reports*, 1(4) 646-650 May 14, 2013

鈴木良雄, 木元広実, 永倉ゆか, 児玉千紘, 鯉川なつえ, 櫻庭景植, 鈴木チセ, 佐々木啓介, 清水智美, 奥田美穂. 乳酸菌 *Lactococcus lactis* ssp. *cremoris* H61 株含有ヨーグルトの継続摂取が女子大学生の肌, 便通, 体調に及ぼす影響. *New Diet Ther*, 29(1): 23-30, 2013.

③

鈴木良雄, 仲村 明, 長門俊介, 鯉川なつえ, 櫻庭景植, 小林 唯. 大学陸上長距離選手の栄養素充足状態および競技能力の客観指標の探索. Exploring biomarkers to indicate nutritional status and athletic performance in college distance runners. *ネスレ栄養科学会議 研究成果報告書*. 2013.

④

鈴木良雄, 仲村 明, 長門俊介, 沖田磨衣, 鯉川なつえ, 櫻庭景植, 奥村 康, 竹田和由, 澤木啓祐. 乳酸菌 R-1 の摂取は持久運動に伴う免疫機能の低下を抑制する. 第68回日本体力医学会大会. 演題番号: 1I6-3, 東京: 日本教育会館. 2013年9月21~23日.

高梨雄太, 鯉川なつえ, 鈴木良雄, 沖田磨衣, 櫻庭景植, 奥村 康, 竹田和由, 澤木啓祐. 乳酸菌 R-1 の摂取は投擲選手の強化練習に伴う免疫機能の低下を抑制する. 第68回日本体力医学会大会. 演題番号: 1I6-4. 東京: 日本教育会館. 2013年9月

Suzuki Y, Nakamura A, Nagato S, Koikawa N, Sakuraba K, Kobayashi Y. Exploring biomarkers to indicate nutritional status and athletic performance in college distance runners. 第3回食と生命のサイエンス・フォーラム. 東京: 東京大学伊藤謝恩ホール. 2013年10月2日.

⑤

鯉川なつえ: 毎日新聞 (夕刊) コラム「ママは監督」, 2013年4月から隔週火曜連載中

⑥

※講演, 公開講座, TV・雑誌などの解説・インタビュー, 学会誌等の査読経験 (雑誌名記載のこと), 外部資金 (科研費除く) 獲得課題等を含む.

鯉川なつえ: スポーツ医学研究講座, 「速くて強い女性アスリートになろう」, 大分県体育協会主催, 2013. 2

鯉川なつえ: トレーニング指導者研修会, 「持久系トレーニング」, 福岡県教育委員会主催, 2013. 11

鯉川なつえ: 第34回まつえハーフマラソン兼第16回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会, 解説, フジテレビ, 2013. 3. 17

鯉川なつえ: 第25回全国高校女子駅伝, 解説, NHK, 2013. 12. 22

鯉川なつえ: 第32回全国都道府県対抗女子駅伝, 解説, NHK, 2013. 1. 12

鯉川なつえ: 論文査読「陸上競技研究」

越川 一紀

④

1. 青木和浩, 河村剛光, 中丸信吾, 渡辺圭祐, 越川一紀. 大学アスリートにおける跳躍能力とバウンディングの関係. *日本陸上競技学会第12回大会*, 2013.12

2. 木村友哉, 渡辺圭祐, 柳谷登志雄, 越川一紀, 青木和浩. 走幅跳における踏切準備動作と跳躍パフォーマンスの関係—踏切前2歩に着目して—. *日本陸上競技学会第12回大会*, 2013.12

蔦宗 浩二

⑤ 「ブロックでケガをさせない手の形」 *Sportsmedicine* 147Contents January, 2013
2013. 1月号 pp. 29~31

⑥ [講習会・講演会]

1. 千葉県バレーボール中体連主催「バレーボール講習会」
2013. 8

2. 東京都江戸川区医師会主催「すば一つのおもしろさと人間教育」2013. 10

中村 恭子

①

1. 中村なおみ・中村恭子：ステップアップ高校スポーツ「ダンス」. 大修館書店, 298-323, 2013. 4

②

1. 中村恭子：中学校体育全領域必修化に伴うダンス授業の変容と課題—ダンス種目の学習内容・指導方法を中心に—. 比較舞踊研究19, 1-11, 2013. 1
2. 中村恭子：日本のダンス教育の変遷と中学校における男女必修化の課題. スポーツ社会学研究21(1), 37-51, 2013. 3

3. 中村恭子・宮本乙女：中学生のダンス経験とダンスイメージの変容. 舞踊教育学研究15: 13-24, 2013. 9

④

1. Kyoko NAKAMURA, Naomi NAKAMURA: A research on the actual condition of dance education in junior high schools in Japan. IAPESGW (International Association of Physical Education and Sports for Girls and Women) 17th World Congress, Habana Cuba, 2013. 4
2. 中村恭子, 宮本乙女, 中村なおみ：現代的なリズムのダンスの学習内容および学習方法の違いが学生の授業評価に及ぼす影響. 日本体育学会第64回大会（滋賀）予稿集, 356, 2013. 8.
3. 宮本乙女, 中村なおみ, 中村恭子：生徒が楽しく探求的に取り組む「現代的なリズムのダンス」の指導法と単元の開発. 日本体育学会第64回大会（滋賀）予稿集, 356, 2013. 8.
4. 中村なおみ, 宮本乙女, 中村恭子, 木原慎介：中学校ダンス授業における教師の指導経験の差による教材と教授行動理解の段階性について—グループ活動時に着目して—. 日本体育学会第64回大会（滋賀）予稿集, 355, 2013. 8.

5. 中村恭子, 廣澤正孝, 細見 修, 山倉文幸, 鈴木利人：歩行運動時におけるBGMや他者との交流の有無が心理的・生理的ストレス反応に及ぼす影響. 第68日本体力医学会大会（東京）予稿集：214, 2013. 9.

6. 中村恭子, 廣澤正孝, 細見 修, 山倉文幸, 鈴木利人, 輪島留美子, 久保田陵一, 吉田理恵：精神科リハビリテーションとしてのスポーツ活動の有効性—歩行運動時におけるBGMや他者との交流の有無が心理的・生理的ストレス反応に及ぼす影響—. 第56回日本病院・地域精神医学会総会（札幌）抄録集：71, 2013. 10.

⑥

1. 中村恭子, 宮本乙女, 熊谷昌子：はじめて取り組む楽しいダンスの学習法. 全国ダンス・表現運動授業研究会, 講師. 東京, 2013. 6. 30
2. 長津 芳, 中村恭子, 馬場俊一：東京都中央区立阪本小学校体育研究会（表現運動）, 指導助言. 東京, 2013. 7. 3, 2013. 9. 18, 2013. 11. 6, 2014. 1. 22
3. 中村恭子：熊本県女子体育連盟夏期ダンス講習会, 講師. 熊本, 2013. 8. 4~5
4. 中村恭子：埼玉県女子体育連盟ダンス講習会, 講師. 上尾, 2013. 8. 6
5. 中村恭子, 橋本由美子：市川市教育委員会ダンス研学会, 講師. 千葉, 2013. 8. 7, 2013. 8. 23
6. 中村恭子：群馬県女子体育連盟夏期ダンス講習会, 講師. 前橋, 2013. 8. 20
7. 中村恭子：中学校の実態調査—ダンス男女必修化に伴う変容と課題—. お茶の水女子大学公開シンポジウム「ダンス授業におけるジェンダーを考える—多様性の捉え方をめぐって—」第Ⅱ部 授業実践から考えるダンス教育の問題, シンポジスト. 東京, 2013. 10. 6
8. 中村恭子：千葉県茂原市立南中学校学校体育研究会「ダンス領域・現代的なリズムのダンス」, 指導助言. 茂原, 2013. 11. 20
9. 中村恭子：千葉県教育委員会主催千葉県学校ダンス発

表会, 作品講評. 千葉, 2013. 11. 27

10. 中村恭子: 千葉県女子体育連盟研究発表会, 指導助言, 千葉, 2013. 12. 3
11. 学会誌等の査読: 体育学研究 (1編), 比較舞踊研究 (2編), (公社) 日本女子体育連盟学術研究 (1編)

中村 充

②

1. Kiyoshi Ito, Nobuyoshi Hirose, Mitsuru Nakamura, Naoya Maekawa, Masahiro Tamura. Judo Kumi-te Pattern and Technique Effectiveness Shifts after the 2013 International Judo Federation Rule Revision. Archives of Budo, Vol 10 OA1-9

④

1. 中野雅貴, 中村 充, 廣瀬伸良. 剣道の打撃動作における体幹部の移動について. 日本武道学会第46回大会・第1回国際武道会議 第46巻別冊, 31.
2. 伊藤 潔, 廣瀬伸良, 中村 充, 前川直也, 田村昌大. IJF2013 ルール改正に伴う戦術行動にみる投技効力の変化について. 日本武道学会第46回大会・第1回国際武道会議 第46巻別冊, 77.

原田 睦巳

②

1. 採点規則の改定に伴うあん馬の演技構成に関する一考察
原田睦巳・加納 實・小西康仁・富田洋之
日本体操競技・器械運動研究21号, 1-10 (2013. 3)

③

1. 平成24年度大学スポーツ研究活動資源活用事業 活動報告書
順天堂大学スポーツ健康科学部 活動報告書

④

1. 体操男子団体戦における競技方式の数学モデリング—個人得点を正規分布で表現した際の団体得点の分布計算とその応用—

廣津信義・原田睦巳・加納 實

日本体育学会第64回大会 (2013. 9) 予稿集 P. 300に掲載

⑥

1. Effect of a short term training session on bacterial gut microbiota in male athletes.
Suzuki Y, Nakadake M, Tomita T, Harada M, Kano K, Sakuraba K, Tsuji H, Takahashi T, Asahara T, Nomoto K, Yamashiro Y.
Japan-Russia International Workshop 2013 - Infectious Diseases. 東京: 順天堂大学. 2013年10月28日.

2. 福井県鯖江市体操協会主催ふれあい体操教室 講師 (2013.3)

廣瀬 伸良

②

- 1) The Transformation of Technical-tactical Behaviors for Hand Techniques Used in Attacking Below the Belt after the 2010 International Judo Federation Rule Revision.
Kiyoshi Ito, Nobuyoshi Hirose, Mitsuru Nakamura, Naoya Maekawa, Masahiro Tamura, Nobuyoshi Hirotsu
Archives of Budo 9(1): 1-6. 2013.

- 2) 地方有力大学柔道選手の心理的特性

前川直也, 坂本道人, 石井兼輔, 越野忠則, 矢崎利加, 廣瀬伸良, 田村昌大
徳山工業高等専門学校研究紀要第36号: 43-52. 2013.

- 3) The method of expert evaluation of specific abilities to practice judo - proposition of Japanese top level university judo coaches
Naoya Maekawa, Nobuyoshi Hirose, Kiyoshi Ito, Kensuke Ishii, Tadanori Koshino, Rika Yazaki, Masahiro Tamura
Archives of Budo 9(4): 219-224, 2013.

④

- 1) 柔道選手における競技力の主観的評価尺度の作成 (その2)
前川直也, 廣瀬伸良, 石井兼輔, 越野忠則, 矢崎利加, 伊藤 潔, 田村昌大
武道学研究第46巻別冊 p59, 2013.

2) IJF2013ルール改正に伴う戦術行動にみる投技効力の変化について

伊藤 潔, 廣瀬伸良, 中村 充, 前川直也, 田村昌大
武道学研究第46巻部冊 p77, 2013.

3) 大学柔道選手における *T. tonsurans* 感染症の罹患率の推移—東京学生柔道連盟登録柔道選手を対象にして—
田村昌大, 廣瀬伸良, 小川祐美, 貞政裕子, 比留間政太郎

Medical Mycology Journal, p93, 2013.

4) *Trichophyton tonsurans* 124株における抗真菌剤7薬剤の感受性パターン検討

田村 俊, 比留間 翠, 小川祐美, 廣瀬伸良, 比留間政太郎, 山本美佳智, 槇村浩一
Medical Mycology Journal, p104, 2013.

5) Effect of 2013 International Judo Federation Rule Revision on Throwing Techniques' Tactical Effectiveness: Comparative Analysis

Kiyoshi Ito, Nobuyoshi Hirose, Mitsuru Nakamura, Naoya Maekawa, Masahiro Tamura
International Judo Symposium-Medical and Scientific Aspect, 2013, p7.

6) Trends in prevalence of *T. tonsurans* infection in Japan —The intended for university judo players—

Masahiro Tamura, Nobuyoshi Hirose
International Judo Symposium-Medical and Scientific Aspect, 2013, p4.

7) An evaluation of judo competitor's specific abilities by Japanese university judo coaches

Naoya MAEKAWA, Nobuyoshi HIROSE, Kiyoshi ITO, Kensuke ISHII, Tadanori KOSHINO, Rika YAZAKI, Masahiro TAMURA
International Judo Symposium-Medical and Scientific Aspect, 2013, p6.

⑥

1) 日本武道学会投稿原著論文 査読2編

准教授

中嶽 誠

③

1. 田口富一 (他千葉県立成田国際高等学校保健体育科教諭), 中嶽 誠. 学習規律の確立. 千葉県学校体育研究指定校研究紀要. 2013年4月.

2. 中嶽 誠. バスケットボール競技における3ポイントライン拡張によるシュート選択行動の変化. 順天堂スポーツ健康科学研究, 4(1), 41-45. 2013年3月.

3. 中嶽 誠. バスケットボール競技におけるルール改正前後の技術戦術について. 順天堂スポーツ健康科学研究. 4(Supplement), 59, 2013年3月.

4. 櫻庭景植, 中嶽 誠. 2012年度クラブ活動指導報告 男子バスケットボール部. 順天堂スポーツ健康科学研究. 4(Supplement), 39, 2013年3月.

5. 櫻庭景植, 中嶽 誠, 竹内敏康. 2012年度クラブ活動指導報告 女子バスケットボール部. 順天堂スポーツ健康科学研究. 4(Supplement), 40, 2013年3月.

④

中嶽 誠, 長沼裕太. フィジカルトレーニング導入による順天堂大学男子バスケットボール部の事例. 順天堂大学スポーツ健康科学部. 2013年6月8日.

⑥

Suzuki Y, Nakadake M, Tomita T, Harada M, Kano K, Sakuraba K, Tsuji H, Takahashi T, Asahara T, Nomoto K, Yamashiro Y. Effect of a short term training session on bacterial gut microbiota in male athletes. Japan-Russia International Workshop 2013 - Infectious Diseases. 東京: 順天堂大学. 2013年10月28日.

仲村 明

③

1. 鈴木良雄, 仲村 明, 長門俊介, 鯉川なつえ, 櫻庭景植, 小林 唯. 大学陸上長距離選手の栄養素充足状態および競技能力の客観指標の探索. Exploring biomarkers to indicate nutritional status and athletic performance in

college distance runners. ネスレ栄養科学会議 研究成果報告書. 2013.

④

1. 鈴木良雄, 仲村 明, 長門俊介, 沖田磨衣, 鯉川なつえ, 櫻庭景植, 奥村 康, 竹田和由, 澤木啓祐. 乳酸菌 R-1 の摂取は持久運動に伴う免疫機能の低下を抑制する. 第68回日本体力医学会大会. 演題番号: 116-3, 東京: 日本教育会館, 2013. 9

⑤

1. 仲村 明, 長門俊介, 福島 稔. トップアスリートと指導者の養成への取り組み, Calcium NEWS (Vol. 20). ユニカ食品株式会社 (2014年1月)
2. 監督たちの挑戦 (全10区間の戦略を語る), 箱根駅伝ガイド決定版2014, p95, 読売新聞, 2013. 12

助教

青葉 幸洋

④

1. 福士徳文, 桜庭景植, 吉村雅文, 窪田敦之, 青葉幸洋. シューズの相違がターン動作における足底圧に及ぼす影響～第5中足骨疲労骨折との関連を中心に～. 第26回日本トレーニング科学学会大会, 2013年11月
2. 河村剛光, 窪田敦之, 青葉幸洋, 中田 学, 青木和浩. 速度の異なる直球を用いた打撃練習と見るトレーニングが打撃能力に及ぼす影響. 第26回日本トレーニング科学学会大会, 2013年11月
3. 石原美彦, 内藤久士, 青葉幸洋, 岡本一洋, 吉村雅文. サッカー審判員の移動特性に関する研究. 第11回日本フットボール学会, 2013年12月
4. 島寄 佑, 吉村雅文, 青葉幸洋, 福士徳文, 岡本一洋. 日本人サッカー選手の ACTN3 遺伝子型に関する研究. 第11回日本フットボール学会, 2013年12月
5. 吉村雅文, 青葉幸洋, 福士徳文, 島寄 佑, 岡本一洋, 石原美彦, 渡辺圭佑, 柳谷登志雄. 女子サッカーの競技力向上を目指して大腿前部の筋厚, ジャンプテスト, BIODEX の結果から. 第11回日本フットボール学会,

2013年12月

⑥

公開講座: 2013年11月24日 (日) サッカー教室

荻原 朋子

②

1. Kaori Saito, Masahumi Yoshimura and Tomoko Ogiwara: Pass Appearance Time and pass attempts by teams qualifying for the second stage of FIFA World Cup 2010 in South Africa —All 48 group stage matches—, Football Science Vol. 10. 65-69, 2013.

④

1. 荻原朋子, 岡出美則, 須甲理生, 四方田健二: 小学校高学年児童におけるオーバーハンドパスに関する素朴概念調査方法の検討 中学生との比較から. 日本体育学会第64回大会予稿集, 立命館大学: 349, 2013.
2. 須甲理生, 笹本重子, 荻原朋子, 四方田健二, 岡出美則: 教職1年目の保健体育教師における省察を通じた授業に関する信念の形成 体育授業指導経験における転機に着目したインタビュー調査を通して. 日本体育学会第64回大会予稿集, 立命館大学: 354, 2013.
3. 酒匂宙夢, 今関豊一, 荻原朋子: 小学校体育授業の持久走におけるかかわり合いにはたらきかける学習の検討—児童の発言に着目して—. 日本スポーツ教育学会第33回大会号, 日本大学: 74, 2013.

4. Takeshi Asada, Tomoko Ogiwara, Toyokazu Imazeki: Studies on free zone and the contents of learning soccer in physical education classes, The 33rd convention of the Japanese society of sport education, Nihon University: 108, 2013.

⑤

1. 荻原朋子: 技能学習で知識の再構成を図る—バレーボールのオーバーハンドパスを例に—. 体育科教育 62, 大修館書店: 36-39, 2013.

⑥

研究会講師

1. 八千代市西高津小学校体育研修会講師 (2013年度)
2. 白井市立七次台中学校体育科研究会講師 (2013年度)
3. 白井市体育授業研究会講師 (2013年6月, 12月)
4. 世田谷区立芦花小学校体育研究部講師 (2013年10月)
5. 松戸市小学校体育実技研修会講師 (2013年11月)

査読経験 (2013年度)

1. 日本教科教育学会
2. 日本体育科教育学会

高梨 雄太

③

1. 高梨雄太. 女子やり投競技者における試技開始前準備動作の調査. 陸上競技研究95, pp. 24-30. (2013)
2. 廣瀬健一, 高梨雄太, 青木和浩, 金子今朝秋. ハンマー投競技者のパフォーマンスとコントロールテストの関連性について. 陸上競技研究92, pp. 38-44. (2013)
3. 櫻田淳也, 佐々木大志, 高梨雄太. 大学および高等学校における陸上競技の授業の現状について. 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学女子体育研究所所報第7号, pp. 1-4 (2013)

④

1. 高梨雄太, 鯉川なつえ, 鈴木良雄, 沖田鷹衣, 櫻庭景植, 奥村 康, 竹田和由, 澤木啓祐. 乳酸菌 R-1 の摂取は投擲選手の強化練習に伴う免疫機能の低下を抑制する. 第68回日本体力医学会大会予稿集 p. 168, 116-4. (2013)
2. 廣瀬健一, 高梨雄太, 大山圭悟, 青木和浩. 高重量ハンマーを使用したトレーニングがハンマー投パフォーマンス及び投動作に及ぼす影響. 日本陸上競技学会12回大会 (～臨戦態勢の実践知を考える～) 予稿集 p. 35. (2013)

⑤

1. 高梨雄太. 連続写真で見る陸上競技の技術, 特別編「モスクワ世界選手権金メダリストたちに学ぶスーパー・テクニク」男子円盤投, ロベルト・ハーティン

グ. 月刊陸上競技11月号, pp. 96-97. 講談社 (2013)

富田 洋之

③

2012年度クラブ活動指導報告書 体操競技部

加納 實, 原田睦巳, 富田洋之 [他]

順天堂スポーツ健康科学研究 4(Suppl.), 32-35, 2013-03

⑥

TV・雑誌などの解説・インタビュー

- ・NHK 番組名「ためしてガッテン」収録
- ・NHK インタビュー
- ・ニコチル広報誌 インタビュー
- ・文芸春秋「number」取材

講演

- ・高谷中学校
- 「生きる力の育成 夢にチャレンジ 世界にはばたく人材育成」

講演・実演指導

- ・横浜医科学センター
- ・豊田市体操教室

その他

- ・ワールドカップ東京大会 国際審判
- ・世界体操競技選手権大会 国際審判

町田 萌

②

1. Machida, M., Irwin, B., & Feltz, D. (2013). Resilience in competitive athletes with spinal cord injury: The role of sport participation. *Qualitative Health Research*, 28, 1054-1065.

2. Machida, M., & Feltz, D. (2013). Studying the career advancement of women coaches: The roles of leader self-efficacy, *International Journal of Coaching Science*, 8, 22-27.

③

1. 内田遼介・町田 萌・土屋裕睦・釘原直樹. (印刷中). スポーツ集合的効力感尺度の改訂・邦訳と構成概念妥当性の検討, 体育学研究.

④

1. Machida, M., Yamada, H., Araki, K., & Tsuchiya, H. (July, 2013) A preliminary examination of the relationship between physical activity motivation and self-efficacy among physical activity participants in Japan. In T. Morris., *Developing the Measurement of Participation Motivation in Sport and Physical Activity*?. A symposium conducted at the meeting of International Society for Sport Psychology, Beijing, China.
2. Yamada, H., Machida, M., & Tsuchiya, H. (August, 2013). An exploratory study on self-talk use among Japanese collegiate athletes. A poster presented at the meeting of International Society for Sport Psychology, Beijing, China.
3. 町田 萌・内田遼介・土屋裕陸 (2013年8月). 未来のスポーツ指導者を育成する：学生のスポーツ指導への自信を育てるには？ 口頭発表，日本体育学会，滋賀県草津.
4. 山田裕生・町田 萌・土屋裕陸 (2013年8月). 大学競技者におけるセルフトーク. 口頭発表，日本体育学会，滋賀県草津.
5. Machida, M., & Feltz, D. (October, 2013). Examining a model of career advancement of female and male assistant coaches. A paper presented at the annual meeting of Association for Applied Sport Psychology New Orleans, LA, USA.
6. 町田 萌・荒木香織・木田京子 (2013年11月). スポーツ指導者のコーチング効力感と環境および個人要因の関係. 口頭発表，日本スポーツ心理学会，東京.

⑥

1. 町田 萌 (代表)・荒木香織・木田京子. 笹川スポーツ財団 (H. 25) 一般研究 (100万円)「女性のスポーツ指導者キャリアパスの検討」(#130A1-008)
2. 公開講座 講師「子供の才能を伸ばす親のサポート」, 順天堂大学, 千葉県印西市 (2013年10月)
3. トヨタ自動車アルバルク, スポーツ心理学コンサルタント (2013年～現在)

助手 島寄 佑

④

〔国内学会発表〕

1. 島寄 佑, 吉村雅文, 青葉幸洋, 福士徳文, 岡本一洋. 日本人サッカー選手の ACTN3 遺伝子型に関する研究. 日本フットボール学会11th Congress, 平塚, 2013年12月
2. 吉村雅文, 青葉幸洋, 福士徳文, 島寄 佑, 岡本一洋, 石原美彦, 渡辺圭佑, 柳谷登志雄. 女子サッカーの競技力向上を目指して—大腿前部の筋厚, ジャンプテスト, BIODEx の結果から— . 日本フットボール学会11th Congress, 平塚, 2013年12月

高橋 祐太

③

1. 実践研究：競泳選手における高強度短距離インターバルトレーニングがストローク特性に与える影響：スポーツパフォーマンス研究, 2013 272-278

中田 学

④

〈国内学会発表〉

- 河村剛光, 窪田敦之, 青葉幸洋, 中田 学, 青木和浩
速度の異なる直球を用いた打撃練習と見るトレーニングが打撃能力に及ぼす影響
第26回 日本トレーニング科学学会大会, 山形, 2013. 11

長門 俊介

③

1. 鈴木良雄, 仲村 明, 長門俊介, 鯉川なつえ, 櫻庭景植, 小林 唯, 大学陸上長距離選手の栄養素充足状態および競技能力の客観指標の探索. Exploring biomarkers to indicate nutritional status and athletic performance in college distance runners. ネスレ栄養科学会議 研究成果報告書. 2013.

④

1. 鈴木良雄, 仲村 明, 長門俊介, 沖田磨衣, 鯉川なつ

え, 櫻庭景植, 奥村 康, 竹田和由, 澤木啓祐, 乳酸筋 R-1 の摂取は持久運動に伴う免疫機能の低下を抑制する. 第68回日本体力医学会大会. 演題番号: 116-3, 東京: 日本教育会館, 2013. 9

⑤

1. 仲村 明, 長門俊介, 福島 稔, トップアスリートと指導者の養成への取り組み, Calcium NEWS (Vol. 20). ユニカ食品株式会社 (2014年1月)

中野 雅貴

④

中野雅貴, 中村 充, 廣瀬伸良. 剣道の打突動作における体幹部の移動について. 武道学研究 第46巻 別冊p30, 2013

〔スポーツマネジメント学科〕

教授

小笠原悦子

③

順天堂大学マルチサポート事業 (監修: 小笠原悦子) (2013) 女性アスリート戦略的支援方策レポート. 263p.

④

Ogasawara, E. (2013) Women in University and Olympic Sport. 2013 International University Sports Federation (FISU) Conference Proceedings, Keynote Speech, Kazan, Russia, July 16. 2013. pp. 53-56.

池畑亜由美・河野梨香・佐々木康成・鈴木志保子・佃 文子・涌井佐和子・小笠原悦子 (2012) 成長期の女性アスリートに向けたセルフマネジメント教育プログラムの開発: 女子高校生アスリートの月経実態調査より. 日本体育学会第64回大会予稿集. p. 301.

Takahashi, R., Kohno, Y., Ogasawara, E., & Kitamura, K. (2013). The Use of Twitter Among Japanese Sport Organizations. The 9th Asian Association For Sport Management Conference, Kuala Lumpur, Malaysia, June 28, 2013, Abstract pp. 18-19.

高橋遼太郎・河野 洋・小笠原悦子・北村 薫 (2013)

Twitterの実践的研究: 国内競技団体 (NF) と国際競技団体 (IF) の活用の現状比較. 日本スポーツマネジメント学会第6回大会号, p. 30.

⑤

小笠原悦子 (2013) 現代社会における女性とスポーツ. CEL, 103, pp. 46-49.

⑥

文部科学省委託事業: 平成24年度マルチサポート事業女性アスリートの戦略的サポート事業統括責任者 (2013年3月まで)

北村 薫

②

1. 依田充代, 北村 薫. ドーピング知識とスポーツ観の研究: 小中学生の現状から. 運動とスポーツの科学 18 (1), 29-40, 2012 (2013発行)

④

〔国際学会発表〕

1. Ryotaro Takahashi, Yoh Kohno, Etsuko Ogasawara, and **Kaoru Kitamura**. THE STUDY OF THE USE OF TWITTER BY THE JAPANESE SPORT ORGANIZATIONS. Asian Association for Sport Management 9th Conference, Kuala Lumpur, Malaysia, 2013年6月

〔国内学会発表〕

1. 庄司直人, 芳地泰幸, 水野基樹, 北村 薫. フィットネスクラブ従業員のスポーツを通じた学習に関する予備的研究. 日本スポーツ心理学第40回大会, 東京, 2013年11月.
2. 庄司直人, 中山貴太, 芳地泰幸, 藤井啓嗣, 川田裕次郎, 水野基樹, 北村 薫. 自転車運転者の不安全行動を引き起こす心理的要因に関する研究—政令指定都市の事故およびヒヤリ・ハットレポートからのアプローチ—. 第42回人類動態学会東日本地方会, 東京, 2013年12月.
3. 松川勇樹, 依田充代, 安藤俊明, 北村 薫. 運動組織に加入していない子供の特徴分析と支援の検討. 日本スポーツマネジメント学会第6回大会, 東京, 2013年12月.

4. 高橋遼太郎, 河野 洋, 小笠原悦子, 北村 薫.
Twitter の実践的研究: 国内競技団体 (NF) と国際競技
団体 (IF) の活用の現状比較. 日本スポーツマネジメン
ト学会第6回大会, 東京, 2013年12月.

須藤 路子

②

Mochizuki, Akito Azumane, Sudo, Michiko Mochizuki, Itoh, Kenji, and Kirino, Eiji (2013) System analysis of physical abilities, social functioning and language proficiency. *Journal of Health and Sports Science, Juntendo*, 5(1), 1-9.

③

須藤路子 (2013) 「英語の母語習得と第二言語習得におけるリズムパターン生成モデル」『科学研究費助成事業研究成果報告書』 1-5.

④

1. 須藤路子・金子育世 (2013) 「海外在住開始年齢と期間が日本人学習者による英語母音の compensatory shortening に与える影響」『日本音響学会講演論文集』 451-452.
2. 伊藤憲治, 須藤路子, 望月明人, 桐野衛二 (2013) 「運動・認知機能の連関解析」『第3回3学会(人間工学・Fuzzy・21c) 共催大会抄録集』 1, 27-9.
3. 須藤路子・金子育世・西村英俊 (2013) 「英語の生成パターンと聴解力・読解力における年齢要因—日本人帰国生と一般大学生の分析—」『日本音響学会講演論文集』 283-284.

野川 春夫

②

1. 野川春夫・岡田 梓・佐々木朋子・田中暢子・工藤康宏: 「東アジア等におけるスポーツ振興の一元化推進策に関する国際比較研究—ASEAN 諸国を中心として—」 *SSF スポーツ政策研究*, 2(1), 32-41.
2. 岡安 功・伊藤央二・Walker, G. J.・山口志郎・野川春夫: 「青年後期におけるスポーツ活動の実態及び心理的影響に関する研究—スポーツ振興における日本とカナ

ダの文化比較—」 *SSF スポーツ政策研究*, 2(1), 214-221.

3. 舟木泰世・工藤康宏・梶原 健・涌井佐和子・野川春夫: 「プロスポーツチームとまちづくりに関する研究—bj リーグ新規参入チームの拠点地域における住民のソーシャルキャピタルに着目して—」 *SSF スポーツ政策研究*, 2(1), 126-134.

4. Yasuhiro Watanabe, Koji Matsumoto and Haruo Nogawa: “Variables influencing spectators’ desire to stay at a professional golf tournament in Japan” *Contemporary Management Research*. 9(3), 283-298, 2013.

④

1. 「東アジアにおけるスポーツ振興の一元化推進策に関する国際比較研究—ASEAN 諸国を中心として—」 発表者: 野川春夫
第64回日本体育学会, 立命館大学, 2013年8月28日.
2. 「国民体育大会の総合開会式のイベントマネジメントに関する研究」 発表者: 山田亜沙妃・野川春夫
第64回日本体育学会, 立命館大学, 2013年8月28日
3. 「プロスポーツ拠点地域における近隣住民の観戦行動とソーシャルキャピタルについて」 発表者: 工藤康宏・舟木泰世・野川春夫
第64回日本体育学会, 立命館大学, 2013年8月28日
4. 「東アジアにおけるスポーツ振興に関する国際比較」 発表者: 野川春夫・岡田 梓・佐々木朋子・田中暢子・工藤康宏
第64回日本体育学会・体育社会学, 立命館大学, 2013年8月28日
5. 「体育系大学における AO・推薦入学予定者を対象とした入学前教育の導入効果Ⅰ」
発表者: 水野基樹・芳地泰幸・中山貴太・北村茉衣・野川春夫
第64回日本体育学会・体育心理学, 立命館大学, 2013年8月29日
6. 「体育系大学における AO・推薦入学予定者を対象とした入学前教育の導入効果Ⅱ」

- 発表者：芳地泰幸・水野基樹・中山貴太・藤井啓嗣・野川春夫
第64回日本体育学会・体育心理学，立命館大学，2013年8月29日
7. 「国民体育大会の総合開会式のイベントマネジメントに関する研究」発表者：山田亜沙妃・野川春夫
第64回日本体育学会・体育経営管理，立命館大学，2013年8月28日
8. 「複数種目を組み合わせたスポーツイベント—ブローライフルとノルディックウォーキングイベント—」
発表者：谷津祥一・野川春夫・木谷道宣
イベントサロン2013第15回学会大会，順天堂大学センチュリータワー，2013年11月16日
9. 「国民体育大会における式典イベントの有効性と課題—各都道府県の行進参加者に着目して—」
発表者：山田亜沙妃・野川春夫
イベントサロン2013第15回学会大会，順天堂大学センチュリータワー，2013年11月16日
10. 「スポーツイベントにおけるパーソナリティフィットの効果に関する研究—ブランドパーソナリティを用いた定量分析」
発表者：山口志郎・野川春夫
イベントサロン2013第15回学会大会，順天堂大学センチュリータワー，2013年11月16日
11. 「震災復興におけるダンスイベントの傾向と課題—教育機関に着目して—」
発表者：野川春夫・野原正登・舟木泰世・保坂亮太
イベントサロン2013第15回学会大会，順天堂大学センチュリータワー，2013年11月16日
12. 「ゴルフトーナメントのイベントマネジメントに関する研究—観戦者の特性に着目して—」
発表者：渡辺泰弘・野川春夫・松本耕二
イベントサロン2013第15回学会大会，順天堂大学センチュリータワー，2013年11月16日
13. 「生涯スポーツイベントのスポンサーシップにおける研究」
発表者：小澤 惇・野川春夫・高橋季絵
- イベントサロン2013第15回学会大会，順天堂大学センチュリータワー，2013年11月16日
14. 「MICEの社会的認知度向上に関する研究」
発表者：殿塚すみれ・野川春夫・高橋季絵
イベントサロン2013第15回学会大会，順天堂大学センチュリータワー，2013年11月16日
15. 「Jリーグにおける観戦者のサービス品質認識の男女比較研究」
発表者：山本浩佑・野川春夫・高橋季絵
イベントサロン2013第15回学会大会，順天堂大学センチュリータワー，2013年11月16日
16. 「スポーツ祭東京2013開会式における観覧者の満足度」
発表者：野川春夫・山田亜沙妃
イベントサロン2013第15回学会大会，順天堂大学センチュリータワー，2013年11月16日
17. 「カススラローム競技のジュニア育成プログラムに関する研究—東ヨーロッパに着目して—」
発表者：山田亜沙妃，野川春夫，工藤康宏，早瀬健介
第15回日本生涯スポーツ学会，熱海，2013年10月13日
18. 「Jクラブのクオリティーマネジメントに関する研究」
発表者：保坂亮太，新藤一晴，野川春夫
第15回日本生涯スポーツ学会，熱海，2013年10月13日
19. 「ウォーキング継続率の向上に関する研究—ポスチュアウォーキングに注目して—」
発表者：谷津祥一・鈴木規美子（KIMIKO）・野川春夫
第15回日本生涯スポーツ学会，熱海，2013年10月12日
20. 「日本の障害者スポーツの国際競技力に関する研究—パラリンピック選手の社会化過程に着目して—」
発表者：岡田 梓・田中暢子・野川春夫
第15回日本生涯スポーツ学会，熱海，2013年10月12日
21. 「総合型地域スポーツクラブの継続に向けて—東京都地域スポーツクラブのスタッフ・会員に着目して—」
発表者：舟木泰世・野川春夫・高橋季絵
第15回日本生涯スポーツ学会，熱海，2013年10月12日
22. 「公共スポーツ施設におけるモニタリング」

発表者：高橋季絵・相原 実・野川春夫

第15回日本生涯スポーツ学会，熱海，2013年10月12日

23. 「カヌースラローム競技のジュニア育成プログラムに関する研究—東ヨーロッパに着目して—」

発表者：山田亜沙妃・野川春夫・工藤康宏・早瀬健介

第15回日本生涯スポーツ学会，熱海，2013年10月12日

24. 「マラソン大会における参加者のベネフィットに関する事例研究」

発表者：岡安 功・野川春夫・Morais, D. B.・Casper, J.

第15回日本生涯スポーツ学会，熱海，2013年10月12日

25. 「日韓プロサッカーにおける女性観戦者のサービス品質認識の比較研究」

発表者：金・李・方住月・野川春夫

第15回日本生涯スポーツ学会，熱海，2013年10月12日

26. 「韓国女性のプロサッカー観戦行動に関する研究」

発表者：李・金・方住月・野川春夫

第15回日本生涯スポーツ学会，熱海，2013年10月12日

27. 「サッカークラブのクオリティーマネジメント：Jリーグアカデミーに着目して」

発表者：保坂亮太，新藤一晴，野川春夫

日本スポーツマネジメント学会第6回大会，筑波大学（大塚キャンパス），2013年12月9日

⑤

1. 「指定管理者時代の公共スポーツ施設経営」第23回単著 月刊体育施設，1月号，pp. 38-39. 2013年1月

2. 「指定管理者時代の公共スポーツ施設経営」第24回単著 月刊体育施設，5月号，pp. 38-39. 2013年5月

3. 「指定管理者時代の公共スポーツ施設経営」第25回単著 月刊体育施設，7月号，pp. 38-39. 2013年7月

4. 「指定管理者時代の公共スポーツ施設経営」第26回単著 月刊体育施設，9月号，pp. 38-39. 2013年9月

5. 「指定管理者時代の公共スポーツ施設経営」第27回単著 月刊体育施設，11月号，pp. 38-39. 2013年11月

⑥

基調講演

1. 日本体育学会 本部企画「日本の体育・スポーツ教育の原点に立ち返り」第64回日本体育学会，立命館大学，2013年8月28日.

2. 日本生涯スポーツ学会 本部企画「平成40年」第15回日本生涯スポーツ学会，熱海，2013年10月12日

3. 日本体育施設協会「生涯スポーツ社会を支えるスポーツ施設」第33回近畿研究協議大会，京都，2013年11月29日

4. 「Host of Asian Youth Football Festa and Asian Youth Football Development Plans」2013 Asian Youth Football Festa International Symposium，仁川，韓国，2013年10月4日

5. 「Impacts of the 2020 Tokyo Olympic/Paralympic Games」第8回 AISA Asia Sport Industry Forum，高雄，台湾，2013年12月13日

先任准教授

大野 早苗

②

大野早苗（2013. 4）「表現学関連分野の研究動向—日本語教育—」『表現研究』第97号 p. 21

④

大野早苗（2013. 3）「『書き言葉らしさ』の一側面」『日本リメディアル教育学会第2回関東甲信支部研究会発表予稿集』pp. 26-27 於 聖学院大学

大野早苗（2013. 8）「ディベートの作法を生かした作文指導の試み」『日本リメディアル教育学会第9回全国大会発表予稿集』pp. 76-77 於 広島修道大学

大野早苗（2013. 12）「体育系学部生の作文ストラテジー」『日本リメディアル教育学会第3回関東甲信支部研究会発表予稿集』pp. 22-23 於 日本橋学館大学

⑥

『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』第5号 日

本語教育学会アカデミック・ジャパニーズ・グループ アドバイザー協力者 (2013. 6)

朝日カルチャーセンター日本語教師養成講座講師 (文法) (2013. 4-6)

朝日カルチャーセンター日本語教育能力検定試験対策講座講師 (日本語の構造) (2013. 9)

金子 育世

①

井上逸兵・横山安紀子・金子育世 (2013) 『新・英語音声学』慶應義塾大学出版

④

1. 須藤路子・金子育世 (2013) 海外在住開始年齢と期間が日本人学習者による英語母音の compensatory shortening に与える影響『日本音響学会2013年春季研究発表会講演論文集』451-452, 2013年3月

2. 須藤路子・金子育世・西村英俊 (2013) 英語の生成パターンと聴解力・読解力における年齢要因—日本人帰国生と一般大学生の分析—『日本音響学会2013年秋季研究発表会講演論文集』283-284, 2013年9月

3. Ikuyo Kaneko & Yumiko Mizusawa (2013). An Appraisal analysis of emotional expressions in first and second language writings by Japanese learners of English. *Program & Abstracts for the 2013 ASFLA National Conference*, 50, Oct., 2013.

工藤 康宏

②

1. 「プロスポーツチームとまちづくりに関する研究—bjリーグ新規参入チームの拠点地域における住民のソーシャルキャピタルに着目して—」舟木泰世・工藤康宏・梶原健・涌井佐和子・野川春夫, SSF スポーツ政策研究第2巻1号 2012年度 笹川スポーツ研究助成研究成果報告書, pp. 126-134, 2013.

④

1. 「小学生のスポーツ活動に対する保護者が与える影響」

発表者：伊藤俊貴・工藤康宏, 日本女子体育連盟ウインターセミナー, 2013年2月11日

2. 「祭りへの参加と地域愛着についての研究」発表者：尾名高悠太・工藤康宏, 日本女子体育連盟ウインターセミナー, 2013年2月11日

3. 「スポーツ観戦者における経験価値と観戦回数に関する研究—bjリーグに着目して—」発表者：浜田千絵・工藤康宏, 日本女子体育連盟ウインターセミナー, 2013年2月11日

4. 「スポーツと色彩効果について—フィギュアスケートの衣装の色は審判に影響を及ぼすのか—」発表者：山田清花・工藤康宏, 日本女子体育連盟ウインターセミナー, 2013年2月11日

5. 「The Current Situations of Japanese Sport Tourism.」発表者：Yasuhiro KUDO, 10th Seoul International Sport Industry Forum 2013.

The Creation of Business Value through Sport Convergence. Hanyang University, 2013年2月23日

6. Japanese Case of “Integrating Government, Private and Voluntary Stakeholders Initiatives in the Sport Industry” 発表者：Etsuko Ogasawara, Yasuhiro Kudo. The 9TH Asian Association for Sport Management Conference. 2013年6月

7. 「プロスポーツの拠点地域における住民の観戦行動とソーシャルキャピタルについて」発表者：工藤康宏・舟木泰世・野川春夫, 立命館大学びわこ・くさつキャンパス, 2013年8月29日

8. 「震災の及ぼしたストレスとその解消手段について—サッカーおじさんを対象として—」発表者：中村紘子, 的場洋介, 大塚桃子, 野上咲子, 塩川知良, 山田俊輝, 工藤康宏, 日本生涯スポーツ学会第15回大会, 静岡県熱海市, 2013年10月12日

9. 「中高年サッカー愛好者の体罰に関する意識調査」発表者：野川暁弘, 上杉 杏, 岡村奈奈, 佐藤有里子, 福本拓真, 山本純子, 工藤康宏, 日本生涯スポーツ学会第

15回大会, 静岡県熱海市, 2013年10月12日

10. 「カヌースラローム競技のジュニア育成プログラムに関する研究—東ヨーロッパに着目して—」発表者: 山田亜沙妃・野川春夫・工藤康宏・早瀬健介, 第15回日本生涯スポーツ学会, 静岡県熱海市, 2013年10月12日

11. 「スポーツイベント参加者に与えるクチコミの影響」発表者: 飯田速人・工藤康宏, イベント学会第16回研究大会, 順天堂大学本郷キャンパス, 2013年11月16日

⑤

1. 「日本におけるスポーツツーリズムの背景」工藤康宏, みんなのスポーツ2013. 5, Vol. 393, pp. 12-14 2013年5月

⑥

1. 平成24年度葛飾区スポーツ指導員養成講習会「スポーツクラブの作り方」講師, 2013年2月9日

水野 基樹

①

佐久間信夫, 坪井順一編著『第二版現代の経営管理論』学文社, 東京, 2013

水野基樹: 第7章「モチベーション理論の展開 (143-162頁)」, 第10章「職場のコミュニケーション (207-223頁)」を執筆

②

【原著論文】

水野基樹, 山田泰行, 広沢正孝稿「看護師の職務不満足に影響を及ぼす衛生要因の検討」『産業保健人間工学研究』2012年 Vol. 14, No. 1, 17-24頁

山田泰行, 水野基樹, 榎原 毅, 芳地泰幸, 上島通浩, 広沢正孝稿「大学生のアルバイトとワーク・スクール・コンフリクト多重役割マップ (MRM) を用いたナラティブ・アプローチの展開」『産業保健人間工学研究』2013年 Vol. 14, No. 1, 7-15頁

③

「平成25年度 産業イベント調査報告書 (八千代どんと祭り来場者アンケート調査報告書)」2012年

「ラーニングバリュー総合研究所 平成25年度活動報告書」株式会社ラーニングバリュー, 2012年

④

「首都圏における自転車利用の実態把握Ⅰ—自転車利用時の行動特性と意識に関する質問紙調査からのアプローチ—」人類労働学会全国大会『人類労働学会会報』, 第98号, 21-22頁, 2013年6月

研究者: 川田裕次郎, 藤井啓嗣, 中山貴太, 芳地泰幸, 水野基樹

「首都圏における自転車利用の実態把握Ⅱ—事故およびヒヤリ・ハット体験レポートからのアプローチ—」人類労働学会全国大会『人類労働学会会報』, 第98号, 23頁, 2013年6月

研究者: 芳地泰幸, 藤井啓嗣, 中山貴太, 川田裕次郎, 水野基樹

「国内の主要学会における自転車研究の研究動向の把握」人類労働学会全国大会『人類労働学会会報』, 第98号, 58頁, 2013年6月

研究者: 中山貴太, 芳地泰幸, 藤井啓嗣, 川田裕次郎, 水野基樹

「フィットネスクラブ従業員のレジリエンス向上のための組織的支援」人類労働学会全国大会『人類労働学会会報』第98号, 43-44頁, 2013年6月

研究者: 庄司直人, 藤井啓嗣, 森口博充, 中山貴太, 芳地泰幸, 水野基樹

「体育系大学におけるAO・推薦入学予定者を対象とした入学前教育の導入効果Ⅰ—プログラム体験後の心理的変容の視点から—」日本体育学会『日本体育学会第64回大会予稿集』122頁, 2013年8月

研究者: 水野基樹, 芳地泰幸, 中山貴太, 北村茉衣, 野川春夫

「体育系大学におけるAO・推薦入学予定者を対象とした入学前教育の導入効果Ⅱ—プログラムを体験した学生の入学後の追跡調査の視点から—」日本体育学会『日本体育学会第64回大会予稿集』137頁, 2013年8月

研究者: 芳地泰幸, 水野基樹, 中山貴太, 藤井啓嗣, 野川春夫

「フィットネスクラブ従業員におけるスポーツ経験がレジリエンスに影響を及ぼすプロセスに関する研究」日本体育学会『日本体育学会第64回大会予稿集』135頁, 2013年8月

研究者: 庄司直人, 芳地泰幸, 中山貴太, 藤井啓嗣, 水野基樹

「対「自転車」における事故及びヒヤリ・ハットの実態把握」人類働態学会東日本地方会『人類働態学会会報』第99号, 6-7頁, 2013年11月

研究者: 中山貴太, 庄司直人, 芳地泰幸, 藤井啓嗣, 川田裕次郎, 水野基樹

「自転車運転者の不安全行動を引き起こす心理的要因に関する研究—政令指定都市の事故およびヒヤリ・ハットレポートからのアプローチ—」人類働態学会東日本地方会『人類働態学会会報』, 第99号, 9-10頁, 2013年11月

研究者: 庄司直人, 中山貴太, 芳地泰幸, 藤井啓嗣, 川田裕次郎, 水野基樹, 北村 薫

「運動部活動におけるインセンティブの類型化に関する予備的研究」人類働態学会東日本地方会『人類働態学会会報』, 第99号, 33-34頁, 2013年11月

研究者: 藤井啓嗣, 芳地泰幸, 水野基樹

「フィットネスクラブ従業員のスポーツを通じた学習に関する予備的研究」日本スポーツ心理学会『日本スポーツ心理学会第40回大会研究発表抄録集』162-163頁, 2013年11月

研究者: 庄司直人, 芳地泰幸, 水野基樹, 北村 薫

⑤

「モバイル端末とコミュニケーション」『労働の科学』第68巻11号, 13-17頁, 2013年

執筆者: 水野基樹

⑥

【学会誌の査読】

日本人間工学会「人間工学」

産業・組織心理学会「産業・組織心理学研究」

【研究報告】

「スポーツ選手のメンタルマネジメントに向けたチームビルディングプログラム開発とその効果測定」『スポーツ健

康科学研究』第4巻 (Suppl.), 7頁, 2013年
執筆者: 水野基樹, 山田泰行, 芳地泰幸

【社会貢献活動 (講師)】

学校法人大村文化学園 SD研修「チームビルディング」講師 (2013年1月5-6日, 福岡県)

順天堂大学練馬病院・越谷病院 看護師研修会「チーム医療の実現に向けた効果的なコミュニケーションのあり方を考える」講師 (2013年2月2-3日, 埼玉県)

日本ダイバーショナルセラピー協会 DSW養成講座「コミュニケーションの理論と多様な実践」講師 (2013年4月20日, 東京都)

東京都スポーツ文化事業団 スポーツクラブマネジャー養成講座「クラブマネジャーの役割」講師 (2013年5月19日, 東京都)

法政大学情報科学部 FD研修「チームビルディング」講師 (2013年5月25日, 東京都)

アクサ生命保険株式会社 管理職研修 (基礎編)「マネジメント」講師 (2013年6月21-22日, 神奈川県)

千葉県社会体育協会 公認指導員講習会「スポーツ組織の運営と事業」講師 (2013年6月30日, 千葉県)

神奈川県立体育センター スポーツクラブマネジメント講座「クラブマネジャーの役割」講師 (2013年7月6日, 神奈川県)

佐倉市民カレッジ「チームワークを考える」講師 (2013年7月17日, 千葉県)

法政大学情報科学部 FD研修「授業改善」講師 (2013年7月26日, 東京都)

文部科学省 スポーツキャリア大学院プログラム「活動報告会」報告者 (2013年9月18日, 東京都)

アクサ生命保険株式会社 管理職研修 (応用編)「リーダーシップ」講師 (2013年9月20-21日, 東京都)

アクサ生命保険株式会社 管理職研修 (総括編)「チームマネジメント」講師 (2013年9月4日, 東京都)

日本予防医学協会・産業保健人間工学会 作業管理士認定講習会「リーダーシップ」講師 (2013年10月25日, 東京都)

東京都スポーツ文化事業団 スポーツクラブマネジャー養成講座「クラブマネジャーの役割」講師 (2013年10月3日, 東京都)

九州共立大学 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業「社会的・職業的自律力育成シンポジウム大学生の社会的実践能力を育むキャリア支援」基調講演, (2013年11月30日, 福岡県)

アクサ生命保険株式会社 アクサ・マネジメント・ユニバーシティ (代理店研修)「マネジメント」講師 (2013年12月6-7日, 東京都)

日本ダイバーショナルセラピー協会 DSW 養成講座「コミュニケーションの理論と多様な実践」講師 (2013年12月15日, 大阪府)

山田 満

①
「別創ライフのススメ」(単著) 軽井沢ニュース舎, 2013年5月

⑤
東京中日スポーツ「箱根駅伝のメディア露出効果関連記事」, (17 cm×12段), 2013年12月20日
軽井沢ニュース「スタインウェイピアノ修復関連記事」, (10 cm×4段), 2013年12月13日
るるぶ FREE 軽井沢春号「軽井沢暮らし」, (A4 カラー見開), 2013年5月

⑥
〔講演会〕
・日本スポーツクラブ協会, 全国スポーツクラブマネジャー養成講習会向け講演
「スポーツクラブのマーケティング・コミュニケーション」, 2013年7月21日

〔連載〕
・DAC グループ広報誌に「広告基礎講座」を毎月1ページ連載 (NO1~NO12)

〔健康学科〕

教授 島内 憲夫

①
島内憲夫編訳・鈴木美奈子訳書評:ヘルスプロモーション~WHO:オタワ憲章~, 垣内出版, 2013.

②
島内直子・広沢正孝・島内憲夫:高齢者終末期医療への提案~患者が自らの生命を生き, 最後を迎えるために~, ヘルスプロモーション・リサーチ Vol. 6 No. 1, 4-10, 2013.

③
島内憲夫・鈴木美奈子著:健康社会学講義ノート, 順天堂大学健康社会学研究室.

④
末吉祐介・島内憲夫・鈴木美奈子:大学生の身体組成と生活習慣および主観的健康観の関連, 第11回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会, 抄録集, 60,2013.

山本健次・島内憲夫・鈴木美奈子:スポーツ健康系大学生における保健知識と主観的健康観との関連について, 第11回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会, 抄録集, 61,2013.

野上政彦・島内憲夫:保健体育教諭の主観的健康観と保健体育科の目標及び内容との関連について, 第11回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会, 抄録集, 62,2013.

鈴木美奈子・島内憲夫:主観的健康観と健康行動との関連~大学生を対象として~, 第11回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会, 抄録集, 63,2013.

比地岡亮介・島内憲夫・鈴木美奈子:心疾患を有する人々の健康観・感とそれを取り巻く環境について~ヘルスプロモーションの視点から~, 第11回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会, 抄録集, 65,2013.

宮地康平・島内憲夫・鈴木美奈子：勤労者における食事満足度と幸福感・生活満足度との関連，第11回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会，抄録集，66,2013.

大久保武人・大久保菜穂子・鈴木美奈子・末原義之・高木辰哉・島内憲夫：市民健康講座および学生講義でのロコモティブシンドロームに関する実態調査，第11回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会，抄録集，68,2013.

本沢晶雄・島内憲夫・鈴木美奈子：高齢者の運動習慣に及ぼす主観的健康観の影響，第11回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会，抄録集，79,2013.

⑥

学会の座長

第11回日本ヘルスプロモーション学会・学術大会（平成25年11月29日：松本大学）で，大会長関健（社会医療法人城西医療財団理事長・総長）の講演「私のヘルスプロモーション」の座長を務める。（日本ヘルスプロモーション学会第11回学術大会・総会，抄録集，P.10，2013年）

講演①

平成25年度全国養護教諭研究大会（平成25年8月8日：山梨県甲府市総合市民会館）において，記念特別講演「愛と夢と勇気を育む健康な学校づくり～WHOヘルスプロモーションの視点から～」をする。（平成25年度全国養護教諭研究大会 報告集，P.13-22，山梨県実行委員会，2013年）

講演②

習志野市健康なまちづくり条例施行記念シンポジウム（平成25年11月23日）にて基調講演「これからの健康づくり（ヘルスプロモーション）」をする。

講演③

習志野市民カレッジ・白井市民カレッジ・座間市健康文化都市大学（副学長）にて講演「愛と夢と勇気を育む健康なまちづくり～WHOヘルスプロモーションの視点から～」をする。

下村 義夫

①

鈴木直樹他編 保健の授業づくり(分担執筆) 教育出版，2013

②

塚原加寿子，下村義夫 養護教諭の職務認識に関する実証的研究—学校保健活動との関連について— 日本教育保健学会年報 第20号，23-37，2013

④

日本教育保健学会研究部：日本教育保健学会の20年の蓄積シンポジウム I
第10回日本教育保健学会講演集 pp. 18-19，2013

⑥

査読：体育学研究，学校保健研究，日本教育保健学会年報

広沢 正孝

①

1. 広沢正孝：精神医学．日本精神保健福祉士養成校協会編，精神保健福祉士国家試験模擬問題集2013，問題編 pp6-7，解答編 pp1-3，中央法規，東京，2013.

2. 広沢正孝：精神医学．日本精神保健福祉士養成校協会編，精神保健福祉士国家試験対策，専門科目最終チェック2014，pp3-12，東京，2013.

3. 広沢正孝：「こころの構造」からみた精神病理—広汎性発達障害と統合失調症をめぐって．岩崎学術出版社，東京，2013．（全240頁）

②

1. 山田泰行，水野基樹，榎原 毅，芳地泰幸，上島通浩，広沢正孝：大学生のアルバイトとワーク・スクール・コンフリクト—多重役割割マップ（MRM）を用いたナラティブ・アプローチの展開—．産業保健人間工学研究，14(1)；7-15，2013.

2. 水野基樹，山田泰行，広沢正孝：看護師の職務不満足に影響を及ぼす衛生要因の検討．産業保健人間工学研究，14(1)；17-23，2013.

3. 小野 隆，涌井佐和子，前上里直，広沢正孝，島内憲夫：地域における介護予防事業の自己効力感に対する効果についての縦断的研究．理学療法科学，28(1)；53-58，2013.

4. Yamada, K., Arai, H., Nakazawa, T., Kawata, Y., Kamimura, A., Hirosawa, M.: A Study of the Unity of Sports Teams: Development of a Scale and Examination of Related Factors. *Journal of Physical Education and Sport*, 13(4); 489-497, 2013.
- ③
1. 広沢正孝: アスペルガー症候群の人とのコミュニケーションの仕方. *メンタルヘルスマネジメント*, 2(3); 10-15, 2013.
2. 広沢正孝: 慢性期統合失調症患者の治癒像を考える—第3の故郷を求めての旅. *統合失調症のひろば*, 2(2); 92-97, 2013.
- ④
1. Yamada, Y., Ebara, T., Kinooka, Y., Mizuno, M., Hirosawa, M., Kamijima, M.: Narrative evidence of the work-family positive spillover in Japanese midwives: A descriptive study using the Multiple Roles Map program. *人類労働学会第48回大会抄録集*, p9, 2013.
2. 上村 明, 川田裕次郎, 広沢正孝: 大学男子サッカー選手における誕生日が人数構成に及ぼす影響. *人類労働学会第48回大会抄録集*, pp59-60, 2013.
3. Kawata, Y., Kirino, E., Ito, H., Nakajima, N., Hirosawa, M.: Association between Systemizing and Brain Activation during Information Processing of a Baseball Hitting-Specific Visuospatial Go/No-Go Task: An fMRI Study. Abstract of the ISSP 13th World Congress of Sports Psychology, p285, 2013.
4. Kawata, Y., Iijima, M., Izutsu, S., Kamimura, A., Yamada, K., Hirosawa, M.: Development of the Perceived Physical Competence Scale for Young Children: A study on to 4-5-Year Old Japanese Boys and Girls. Abstract of the ISSP 13th World Congress of Sports Psychology, p246, 2013.
5. Kawata, Y., Kamimura, A., Izutsu, S., Yamada, K., Iijima, M., Hirosawa, M.: Does the Relative Age Effect Exist in Physical Size, Motor Ability, Awareness of Physical Activity, and Kindergarten Teachers' Evaluation of Young Japanese Children? Abstract of the ISSP 13th World Congress of Sports Psychology, p247, 2013.
6. Ito, H., Kawata, Y., Kirino, E., Nakajima, N., Hirosawa, M.: Brain region related to the better performance of baseball players in the baseball hitting-specific visuospatial task: An fMRI study. Abstract of the ISSP 13th World Congress of Sports Psychology, p286, 2013.
7. Kawamura, Y., Kawata, Y., Kirino, E., Ito, H., Nakajima, N., Hirosawa, M.: Understanding Teachers' Verbal Instructions that Promote Sports Motivation to Dodge Ball Games among Young Japanese Children: Focusing on the Number of Steps Taken and Instances of Ball Touching. Abstract of the ISSP 13th World Congress of Sports Psychology, p248, 2013.
8. Kamimura, A., Yamada, Y., Kawata, Y., Yamada, K., Wakui, S., Iijima, M., Hirosawa, M.: Relationship between Athlete Burnout and Depression among Japanese University Athletes. Abstract of the ISSP 13th World Congress of Sports Psychology, p135, 2013.
9. Yamada, K., Arai H., Nakazawa, T., Kawata, Y., Hirosawa, M.: Development of the Unity Scale for Sports Team. Abstract of the ISSP 13th World Congress of Sports Psychology, p181, 2013
10. Kato, T., Hirosawa, M., Kawata, Y., Nakajima, N.: Does a Mental Rotation Task Reflect the Body Schema? A comparison of before and after practice. Abstract of the ISSP 13th World Congress of Sports Psychology, p135, 2013.
11. Yamada, Y., Ebara, T., Mizuno, M., Hirosawa, M.: Risk estimation of the depression from affective temperament, melancholic type and stress related factors; Focusing on the Japanese female nurses. *Proceeding of the 23rd Korean Japan China Joint Conference on Occupational Health*, pp76-77, 2013.
12. 加藤恭章, 広沢正孝, 川田裕次郎, 中島宣行: ボディスキーマの尺度としてのメンタルローテーション課題. *日本体育学会第64回大会予稿集*, p129, 2013.

13. 川田裕次郎, 上村 明, 山田 快, 加藤恭章, 涌井佐和子, 広沢正孝: 大学生アスリートにおけるレジリエンスと精神的健康度の関連. 日本体育学会第64回大会予稿集, p141, 2013.
14. 山田 快, 荒井弘和, 中澤 史, 川田裕次郎, 上村明, 広沢正孝: スポーツチームにおける一体感と環境要因との関連性の検討. 日本体育学会第64回大会予稿集, p150, 2013.
15. 山田泰行, 榎原 毅, 紀ノ岡ゆかり, 水野基樹, 広沢正孝, 上島通浩: 助産師が記述した多重役割マップから見えてくるキャリア・ストレスの仮説. 産業保健人間工学会第18回大会. 産業保健人間工学研究, 15; 128-131, 2013.
16. 上村 明, 川田裕次郎, 山田 快, 広沢正孝: 保護者はどのような視点で幼児の身体活動を評価するのか? —幼児の体格, 運動能力, 運動に対する意識との関連. 日本スポーツ心理学会第40回大会抄録集, pp136-137, 2013.
17. 川田裕次郎, 上村 明, 山田 快, 井筒紫乃, 広沢正孝: 幼児期における相対的年齢効果に差異は存在するのか? —体格, 運動能力, 運動に対する意識, 保育者からの評価に関する検討—. 日本スポーツ心理学会第40回大会抄録集, pp214-215, 2013.
18. 中村恭子, 広沢正孝, 細見 修, 山倉文幸, 鈴木利人, 輪島瑠美子, 久保田陵一, 吉田理恵: 精神科リハビリテーションとしてのスポーツ活動の有効性—歩行運動時における BGM や他者との交流の有無が心理的・生理的ストレス反応に及ぼす影響—. 第56回病院・地域精神医学会, 2013.
19. 岡本隆寛, 広沢正孝, 四方田清, 松山 毅, 松本浩幸: 精神障害者の就労を支えるスタッフの姿勢の変化—過疎地域を支える人材育成を目標として—. 日本精神障害者リハビリテーション学会第21回大会, 2013.

⑥

書評・新聞等

1. 広沢正孝: 書評; 内山登紀夫, 宮岡 等著, 大人の発達障害ってそういうことだったのか. 医学会新聞3045号,

p7, 2013/9/30.

2. 広沢正孝: 書評; 内山登紀夫, 宮岡 等著, 大人の発達障害ってそういうことだったのか. 総合リハビリテーション, 41(10); 984, 2013.
3. 広沢正孝: 現代人の「こころの構造」と精神療法. 学術通信, 33(4); 9-11, 2013.

講演等

1. 広沢正孝: 認知症と特別なニーズを持つ人への配慮と工夫. ダイバーショナルセラピー研修会, 順天堂大学, 2013/03/16
2. 広沢正孝: 職場のメンタルヘルスうつ病と発達障害を中心に. 総務省メンタルヘルス研修会, 総務省, 2013/04/04
3. 広沢正孝: 社会に生きる広汎性発達障害者への対応. 成田市精神保健フォーラム, 成田市保健福祉館, 2013/07/23
4. 広沢正孝: 気分障害の臨床—抗精神病薬が適応となる症例とは. 第103回いわき心身医学懇話会, いわきワシントンホテル, 2013/11/8.

細見 修

②

1. Intranasal immunization with a non-adjuvanted adhesive protein descended from Pasteurella pneumotropica and its preventive efficacy against opportunistic in mice. Sasaki, H., Ishikawa, H., Kojima, K., Hosomi, O., et al., Vaccine, 2013, 19(31) 5729-5735.
2. 糖類が秘める生体内機能. II. 新しいオリゴ糖への期待. 順天堂スポーツ健康科学研究 第4巻第1号10~18. 2013. 細見 修, 池田啓一, 佐々木啓, 奈良岡佑南, 伊藤 匠

⑥

1. アロマオイルの効果について. Fitones, 325(11)22-23, 2013. 細見 修

山岸 明子

②

1. 青年期に記述された生育史の良好さと成人期の適応との関連—内的作業モデルを手かがりにして— 青年心理学研究 25-1, 29-44. 2013
2. The stability and changeability of internal working models and interpersonal cognition from late adolescence to early adulthood: An 11-year longitudinal study of nursing students. 医療看護研究 9-2, 18-26. 2013
3. 成人期の適応に影響する青年期・成人期の対人的要因—17年後の縦断的データに基づく検討 順天堂スポーツ健康科学研究 5-2 (印刷中)

③

1. Adolescence to adulthood longitudinal study of 17 years: Relationship between internal working models and attitude to one's occupation. Proceedings of European Conference on Developmental Psychology. Medimond Company. (in press)
2. 順天堂大学啓心寮での生活による寮生の心理的变化—EQとSocial Skillに着目して— スポーツ健康科学研究, 5-1, 10-15. 2013 (藤井雄斗との共著)

④

1. 青年期の対人的要因は成人期の適応に影響するのか?—17年後の縦断的データによる分析— 日本教育心理学会第55回大会発表論文集 368
2. Adolescence to adulthood longitudinal study of 17 years. Paper presented in European Conference on Developmental Psychology in Lausanne. 303.
3. 生育過程における母親との関係の問題は成人期まで続くのか—問題があった5事例の17年後— 日本心理学会第77回大会発表論文集
4. 成人期の適応に影響する青年期・成人期の対人的要因—17年後の縦断的検討— 日本パーソナリティ心理学会第55回大会発表論文集 75.

5. DIT (Heinzの例話)の質問項目再考 道徳性心理学研究会第29回大会発表論文集

6. 成人期女性の円環母子関係イメージ画の分析—内的作業モデルと関連させて— 日本発達心理学会第25回大会発表論文集 393.

7. 成人期女性の母親・父親との関係—30代後半看護短大, 文系学部卒業生の面接調査の分析— 日本発達心理学会第25回大会発表論文集 411. (井森澄江氏と共著)

前任准教授

飯嶋 正博

②

1. 共著 小坪昭仁・八百則和・長谷川望・飯嶋正博「大学フットボール選手の指定イメージ評価尺度の作成」 奈川体育学会機関誌 体育研究 46. 4-12

③

1. 「体育が苦手な子への支援—子どもの意欲を引き出すために—」 発達協会春セミナー 資料 D-13-22 2/3
2. 「2012年日本リハビリテーション心理学会 (学術大会) 及び 第38回心理リハビリテーション全国大会 (福岡大会) 報告」 千葉県心理リハビリテーション連絡会 ニュースレター No. 6 資料 1-8 2/9

3. 「家庭でできる訓練を覚えて帰ろう!—肩—」 千葉県心理リハビリテーション連絡会情報交換会 研修会 資料 1-2 2/9

4. 「不器用な子どもの動きづくり」 関東甲信心理リハビリテーション連絡協議会 群馬大会 基調講演 群馬県社会福祉総合センター 資料 1-7 6/9

5. 「心理リハビリテーション—動作法の理論と実践 Ver. 000」 千葉県心理リハビリテーション心理学会 第12回トレーナー研修会 資料 1-2 6/29

6. 「動作法とは」 講演と実技 埼玉心理リハビリテーション研究会夏季研修会 聖路加看護大学 資料 1-12 7/13

7. 「自立活動」実技研修会 千葉県立銚子特別支援学校 資料1-2 7/22
8. 「心理リハビリテーション—動作法の理論と実践 Ver.001」ちばひまわり会夏期集中研修会 資料1-24 7/26-28
9. 「自立活動」自立活動実技指導会 千葉県立八日市場特別支援学校 資料1-2 7/30
10. 「体育教科」研修会 市川市特殊教育連盟 資料1-2 7/31
11. 「心理リハビリテーション—動作法の理論と実践 Ver.002」市川なのはな会 夏季集中 資料1-24 8/5-6
12. 「心理リハビリテーション—動作法の理論と実践 Ver.003」千葉さくらんぼの会 夏季集中 資料1-24 8/16-19
13. 「健康ライフをめざして 身体を通して心へ！—健康動作法と無理のない動きづくり—」習志野市市民カレッジ健康スポーツコース 習志野市総合教育センター 資料1-2 9/7
14. 「動作法の基本と実践的援助」習志野市障がい児童民間事業所連絡会 東部デイサービスセンター 資料1-6 9/23
15. 「不器用な子どもの理解と支援—家庭で、学校・園で取り組む「動きづくり」—」第2回特別支援教育相談セミナー 講話・実技 青森県総合学校教育センター 資料1-10 10/5
16. 「不器用な子どもの動きづくり—第2回上肢の動きに注目して—」第2回動作法研修会 NPO法人福祉ネット寿六甲ふくろうの家 資料1-6 11/23
17. 「動作法」学習会 習志野市ことばを育てる親の会 実技&講演 習志野市向山小学校ことばの教室 資料1-4 12/13
18. 「動作法」習志野市 コアラの会 講演会 習志野市 菊田公民館 資料1-2 12/13
19. 「不器用な子どもの動きづくり」校内研修会 実例指導と講義 千葉県立印旛特別支援学校 資料1-8 12/16
- ④
1. Yujiro Kawata, Masahiro Iijima, Shino Izutsu, Akari Kamimura, Kai Yamada & Masataka Hirosawa. 「Development of the perceived physical competence scale for young children: A study on to 4-5 year old Japanese boy and girls.」 Abstract of the ISSP 13th world congress of sports psychology 246
2. Yujiro Kawata, Akari Kamimura, Shino Izutsu, Kai Yamada, Masahiro Iijima, & Masataka Hirosawa. 「Does the relative age effect exist in physical size, motor ability, awareness of physical activity, and kindergarten teachers' evaluation of young Japanese children?」 Abstract of the ISSP 13th world congress of sports psychology 247
3. Akari Kamimura, Yasuyuki Yamada, Yujiro Kawata, Kai Yamada, Sawako Wakui, Masahiro Iijima, & Masataka Hirosawa. 「Relationship between athlete burnout and depression among Japanese university athletes.」 Abstract of the ISSP 13th world congress of sports psychology 150
4. 「動作法における環境と課題内容の構造化—動作課題構造表の試作—」2013年日本リハビリテーション心理学会発表論文集 38-39 11/29
- ⑥
1. 「体育教科」研修会 調布特別支援学校 助言 2/1
2. 「運動と健康づくり」模擬授業 順天堂大学スポーツ健康科学部 オープンキャンパス 健康学科 資料1-4
3. 「発達障害児・者への動作法」第39回心理リハビリテーションの会全国大会 分科会 助言 12/1
4. 「動作法・動きづくり」実技・実践指導（毎月）親の

会・福祉施設主催 千葉さくらんぼの会, 千葉県ひまわり会, (習志野市) コアラの会, ひなクラブ, デイとくら・輝デイサービス動作法家族講習会, かりんの会 (松戸市ダウン症児親の会木馬の会), たんぼぼの会 (千葉市ダウン症児親の会), 青空の会 (杉並区ダウン症児親の会), 武蔵野市ひまわりの会 (武蔵野市ダウン症児親の会), たけのこの会 (足立地域ダウン症児親の会)

牛尾 直行

②

牛尾直行, 「インドにおける RTE 法の成立と論点」, 『教育制度学研究』, 第20号, 2013年, 212-219頁.

③

牛尾直行, 「インドにおける教育を受ける機会の格差と競争」, 『中央評論』, 65巻3号, 2013年, 38-45頁.

牛尾直行, 「カーストを越える教育機会—インド—」, 日本子ども社会学会研究刊行委員会編『子ども問題事典』, 2013年, 162-163頁.

⑥

日本教育制度学会紀要編集委員会編『教育制度研究』常任編集委員

田中 純夫

④

1. 西田敬志, 木村 翔, 田中純夫, 北村 薫: 教育相談職員による児童生徒の軽度発達障害の2段階スクリーニング法の検討〜「運動, スポーツ, 遊び」の参加状況との関連からの検討〜. 日本スポーツ社会学会第22回大会発表論文集, 56-57, 2013.

2. 西田敬志, 田中純夫: 大学生における衝動性とレジリエンスとの関連. 人類働態学会会報 No. 98, 65-66, 2013.

3. 西田敬志, 田中純夫: 大学生における学習スタイルの違いが学習意欲に及ぼす影響. 日本教育心理学会第55回総会発表論文集, 554, 2013.

4. 田中純夫, 西田敬志: 自閉症スペクトラムとレジリエ

ンスとの関連. 日本教育心理学会第55回総会発表論文集, 555, 2013.

5. 西田敬志, 田中純夫: 体育系大学生のアスリート・バーンアウト傾向における抑うつ気分の違いが大学生活・レジリエンスに及ぼす影響. 日本スポーツ心理学会第40回大会研究発表抄録集, 172-173, 2013.

6. 木村 翔, 西田敬志, 田中純夫: 体育系大学生における進路選択セルフエフィカシーの特徴. 人類働態学会第42回東日本地方会プログラム, 抄録集, 31-32, 2013.

7. 佐渡幹也, 西田敬志, 田中純夫: 体育系大学生の電子機器利用状況からみたインターネット依存傾向. 人類働態学会第42回東日本地方会プログラム, 抄録集, 35-36, 2013.

8. 王 岳, 西田敬志, 田中純夫: 中国の大学生における他者からの否定的評価への不安と親の養育態度との関連. 人類働態学会第42回東日本地方会プログラム, 抄録集, 37-38, 2013.

⑤

1. 田中純夫: 蛭雪時代臨時増刊2013年入試対策用全国大学学部・学科案内号, 学問分野別ガイダンス健康科学, 旺文社, 980-981, 2013.

⑥

1. 田中純夫: 精神保健福祉士国家試験模擬問題集2014, 心理学理論と心理学的支援. 中央法規, 2013.

2. 田中純夫: 千葉県総合教育センター平成25年度高等学校初任者研修, 共感的理解に基づく生徒指導, 2013.8.5

3. 田中純夫: 千葉県総合教育センター平成25年度小・中・高等学校生徒指導担当者研修, 問題行動とその指導のあり方, 2013.6.26

4. 田中純夫: 千葉県子どもと親のサポートセンター平成25年度養護教員教育相談上級講座, 健康相談活動の充実に向けて, 2013.10.24

5. 田中純夫: 市川市・八千代市・市原市・旭市教育委員会および小中高等学校の教員研修等

四方田 清

①

1. 「精神保健福祉白書2014年版一歩み始めた地域総合支援—」. 共著, 精神保健福祉白書編集委員会編, pp53, 中央法規出版, 2013
2. 新・精神保健福祉養成講座6「精神保健福祉に関する制度とサービス」第2版, 日本精神保健福祉士養成校協会編, pp102-105 (精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス:自殺対策), 中央法規出版, 2013

③

1. 厚生労働科学研究費補助金(心の健康問題健康科学研究事業)分担研究報告書「入院患者の権利擁護に関する研究」「新たな地域精神保健医療体制の構築のための実態把握および活動の評価等に関する研究」分担研究, 共著
2. 平成24年度厚生労働科学研究費補助金(障害者対策総合研究事業(精神障害分野))研究分担報告書, 「精神保健福祉士の活動評価及び介入方法の開発と普及に関する研究」「精神保健福祉センターにおける精神保健福祉士の役割に関する研究」分担研究, 共著

④

1. 第2回日本精神保健福祉学会(一般演題:埼玉県さいたま市), 「行政機関における精神保健福祉士の役割と機能—精神保健福祉センター全国調査を中心に—」○四方田清, 伊東秀幸, 齋藤敏靖, 行實志都子, 石田賢哉
2. 第21回日本精神障害者リハビリテーション学会(一般演題:沖縄県沖縄市), 「精神医療審査会業務における精神保健福祉士—精神保健福祉センター全国調査からの提案—」○四方田清, 伊東秀幸, 齋藤敏靖, 行實志都子, 石田賢哉
3. 第21回日本精神障害者リハビリテーション学会(一般演題:沖縄県沖縄市), 「精神保健福祉センターの業務と精神保健福祉士—厚生労働科学研究全国調査—」○伊東秀幸, 齋藤敏靖, 四方田清, 行實志都子, 石田賢哉
4. 第21回日本精神障害者リハビリテーション学会(一般演題:沖縄県沖縄市), 「千葉県における精神障害者ス

ポーツの実際—千葉県精神障害者ソフトバレーボール大会から—」○大井崇弘, 四方田清

5. 第21回日本精神障害者リハビリテーション学会(一般演題:沖縄県沖縄市), 「精神障害者の就労を支えるスタッフの姿勢の変化—過疎地域を支える人材育成を目標として—」○岡本隆寛, 広沢正孝, 四方田清, 松山 毅, 松本浩幸
6. 第52回千葉県公衆衛生学会(一般演題:千葉県千葉市), 「精神障害者に期待されるスポーツの必要性と課題—千葉県・千葉市精神障害者ソフトバレーボール大会を中心に—」○大井崇弘, 四方田清

⑥

1. 「今, 地域で必要とされている「こと」とは?—精神障害者の理解と支援—」平成25年度 心の健康市民講座(印西メンタルヘルスサポーター養成編), 印西市役所大講堂, 主催:印西市社会福祉課(2013.8.27)
2. 「改正精神保健福祉法と今後の精神保健福祉サービス」, 市町村職員研修, 主催:埼玉県精神保健福祉センター(2013.10.18)
3. ソーシャルワーカーの基盤としてのアドボカシーセミナー「精神障害者の権利擁護を考える」, 主催:東洋大学(2013.11.9)

涌井佐和子

②

○小野 隆, 涌井佐和子, 前上里直, 広沢正孝, 島内憲夫:地域における介護予防事業の自己効力感に対する効果についての縦断的研究, 理学療法科学, 28(1), 53-58, 2013年1月

○涌井佐和子, 長島未央子, 萩裕美子, 東恩納玲代, 吉武裕:国保加入者における特定健康診査受診状況と身体活動に関わる要因との関連, 生涯スポーツ学研究, 10(1), 2013年(in press)

○范 翔, 竹下俊一, 東恩納玲代, 永山 寛, 吉田剛一郎, 隅野美砂輝, 和田智仁, 前田明, 西蘭秀嗣, 齋藤和人, 涌井佐和子, 吉武 裕:過疎地域に在住する高齢女性

の体力と身体的特性, 生活習慣ならびに社会的特性との関係, 生涯スポーツ学研究, 10(1), 2013年 (in press)

④

○涌井佐和子, 朝倉隆司, 青柳直子, 竹鼻ゆかり: 小・中学生における通学手段・通学環境と身体活動習慣との関連, 第22回日本健康教育学会学術集会 (千葉大学西千葉キャンパス), 2013年6月

○Kamimura,A., Yamada,Y., Kawata,Y., Yamada,K., Wakui,S., Ijima,M. & Hirose,M. Relationship between Athlete Burnout and Depression among Japanese University Athletes. The 2013 International Society of Sports Psychology (ISSP) 13TH World Congress (Beijing, China 21-25 July) 2013年7月

○川田裕次郎, 山田 快, 上村 明, 加藤恭章, 涌井佐和子, 広沢正孝. 大学生アスリートにおけるレジリエンスと精神的健康度の関連, 第64回日本体育学会 (立命館大学: 滋賀県草津市), 2013年8月

○東恩納玲代, 涌井佐和子, 浜岡隆文, 吉田剛一郎, 吉武裕. 鹿児島県大崎町在住女性高齢者の下肢疼痛の有無と身体活動状況との関連の検討, 第64回日本体育学会 (立命館大学: 滋賀県草津市), 2013年8月

○涌井佐和子, 長島未央子, 萩裕美子, 東恩納玲代, 吉武裕: 国保特定健康診査受診対象者における身体活動習慣, 第64回日本体育学会 (立命館大学: 滋賀県草津市), 2013年8月

○池畑亜由美, 河野梨香, 佐々木康成, 鈴木志保子, 佃文子, 涌井佐和子, 小笠原悦子: 成長期の女性アスリートに向けたセルフマネジメント教育プログラムの開発, 第64回日本体育学会 (立命館大学: 滋賀県草津市), 2013年8月

○松下宗洋, 佐藤慎一郎, 平井一芳, 涌井佐和子, 山北満哉: なぜ日本人の歩数は1000歩低下したのか? 既存データを用いた歩数低下の原因の検討, 第16回日本運動疫学会学術集会 (国立健康栄養研究所), 2013年9月

○涌井佐和子, 長島未央子, 萩裕美子, 東恩納玲代, 吉武裕: 国保特定健康診査受診状況と運動習慣との関連—鹿屋

市の事例—第68回日本体力医学会 (日本教育会館・学術総合センター: 東京都), 2013年9月

○黒田 豊, 原口 晃, 松本真之, 西尾進也, 涌井佐和子, 山本正嘉: 高血圧患者における運動時血圧と自覚的運動強度, 第68回日本体力医学会 (日本教育会館・学術総合センター: 東京都), 2013年9月

○松本真之, 黒田 豊, 原口 晃, 西尾進也, 涌井佐和子: 生活習慣病患者における運動強度の検討, 第68回日本体力医学会 (日本教育会館・学術総合センター: 東京都), 2013年9月

○西尾進也, 黒田 豊, 松本真之, 原口 晃, 涌井佐和子: 生活習慣病と最大酸素摂取量: 2013身体活動基準との比較, 第68回日本体力医学会 (日本教育会館・学術総合センター: 東京都), 2013年9月

○小野 隆, 涌井佐和子, 広沢正孝: 運動による介護予防事業参加者の痛みと自己効力感の縦断的变化—介入前後比較から—, 日本生涯スポーツ学会第15回大会 (静岡県熱海市: 起雲閣, いきいきプラザ, 第3庁舎会議室), 2013年10月

⑥

講演・講習会

○文京区立明化小学校学校保健委員会「健康づくりのためのコツ」講師, 2013年1月

○文京区柳町小学校健康講演会「小学生時代の健康づくり—運動, 食事と生活リズム—」講師, 2013年3月

○千葉県健康福祉部健康づくり支援課「平成25年度特定健診・特定保健指導実践者スキルアップ研修会」(運動指導の実際: 担当) (千葉県教育会館: 千葉県千葉市) 講師, 2013年12月

准教授

松山 毅

①

日本特殊教育学会編『障害百科事典』全8巻 丸善出版 2013.1

松山 毅「障害の歴史: 西洋古代」(第2巻 p896-900)

松山 毅「障害の歴史：西洋中世」(第2巻 p900-905)

⑥

日本精神保健福祉士養成校協会編『精神保健福祉士国家試験模擬問題集2014』(2013.7)「地域福祉論」の模擬問題・解説作成

渡邊 貴裕

①

1. 渡邊貴裕, 他2名【編著】(2013) 暮らしに役立つ保健体育. 東洋館出版

③

1. 渡邊貴裕, 他13名(2013) ICTを活用した体育の授業づくり. 東京学芸大学附属学校研究紀要第40集. pp. 11-29,

④

1. Takahiro Watanabe (2013) A report on a curriculum in physical education of a school for students with special needs in japan. 3rd IASSIDD Asia-Pacific Regional conference Program pp. 28

2. 石川敦士 渡邊貴裕 (2013) 障害がある人のスポーツ参加に関する一研究～知的障害特別支援学校卒業生の余暇活動におけるスポーツ参加の事例を通して～. 日本特殊教育学会第51回大会論文集 pp. P5-C-5

3. 渡邊貴裕 (2013) 知的障害者の身体組成に関する研究(2). 日本特殊教育学会第51回大会論文集 pp. P5-G-2

4. 渡邊貴裕 (2013) ダウン症児の発達特性と教育支援を考える～学習, 言語, 運動, 行動, 健康について～. 日本特殊教育学会第51回大会論文集 pp. 31

⑤

1. 渡邊貴裕 (2013) 「運動不足を解消しよう」ステージ65号, 社会福祉法人 全日本手をつなぐ育成会 pp. 5

2. 渡邊貴裕 (2013) 「体を動かそう!」機関誌「手をつなぐ」10月号, 社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会 pp. 3-4

⑥

1. 順天堂大学医学部小児科学講座トータルケア研究会にて講演

演題「知的障害児者への健康・スポーツ教育の現状と課題」

2. 平成25年度初級障害者スポーツ指導員養成講習会講師「(講習科目) 障害の理解とスポーツ (知的)」

3. 東京都杉並区立済美養護学校校内研究授業講師

助教

佐々木 啓

②

Ishikawa H, Awano N, Fukui T, Sasaki H, Kyuwa S. 2013. The protective effects of lactoferrin against murine norovirus infection through inhibition of both viral attachment and replication. *Biochemical and Biophysical Research Communication* 434: 791-796.

Sasaki H, Ishikawa H, Kojima K, Itoh M, Matsumoto T, Itoh T, Hosomi O, Kawamoto E. 2013. Intranasal immunization with a non-adjuvanted adhesive protein descended from *Pasteurella pneumotropica* and its preventive efficacy against opportunistic infection in mice. *Vaccine* 31: 5729-5735.

細見 修・池田啓一・佐々木啓・奈良岡佑南・伊藤匠. 2013. 糖類が秘める生体内機能. II. 新しいオリゴ糖への期待. 順天堂スポーツ健康科学研究 第4巻 第1号(通巻63号) 10-18.

④

石川裕樹, 福井利江, 佐々木啓, 栗野直樹, 田中和生, 松本哲哉 インフルエンザウイルス感染に対するIL-12経鼻投与は感染前投与では予防効果を示し, 感染後投与では病態を悪化させる2013(11月神戸) 第61回日本ウイルス学会学術集会

池田啓一, 松本 孝, 川崎広明, 松本綾子, 細見 修, 小林 淳, 佐々木啓, 山倉文幸 ペルオキシナイトライトによる卵白リゾチームのトリプトファンニトロ化は tri-N-acetylchitotriose により阻害されるか? 2013(9月京都) 第35回日本トリプトファン研究会学術集会

佐々木啓, 石川裕樹, 児島 憲, 松本哲哉, 伊藤正裕, 川本英一 改変 PnxIII A タンパク質の経鼻接種による肺パ
スツレラの感染防御効果2013 (3月東京) 第155回日本獣
医学会学術集会

⑥
学会誌等の査読経験
Microbial Ecology
Microbiology and Immunology